

ふじみの



No.54
東京農大畜友会



畜友会の皆さんへ

畜産学科長・畜友会会長 桑山岳人



平成三十年四月東京農業大学農学部は改組し、農学科、動物科学科、生物資源開発学科、デザイン農学科の四学科体制と生まれ変わります。
東京農業大学農学部畜産学科は、その前身の専門部畜産科として一九四七年（昭和二十二年）に千葉県茂原市にて誕生し、東京都世田谷区を経て、現在の厚木キャンパスは三つ目のキャンパスという事になります。畜産学科としては、平成二十九年度に最後の新入生を迎え、その学生の卒業をもって長い歴史に幕を閉じる事となります。畜産学科の名前がなくなるのは断腸の思いですが、これまで受け継がれて来た畜産学科および畜友会の精神は、今後も農学部の中で脈々と受け継いで行かねばなりません。私達は畜産学科の一員であった事、畜友会の一員であった事をしっかりと胸に刻み、これからは東京農業大学農学部に行く末をしっかりと見守って行きましょう。これからも、よろしく願います。

*『ぶじみの』は大学HP (<http://www.nodai.ac.jp/zoo/original/chikuyukai.html>)
からもPDF版を配信しています。

平成三十年三月吉日

平成二十二年二月吉日



大いなる希望を抱いておられることと存じます。その希望が、この雑誌を通じて、多くの人に伝わり、実現されることを祈ります。また、この雑誌が、畜友会の発展に貢献することを願っています。平成二十二年二月吉日

ふじみの発刊にあたり



春寒次第に緩み、桜の蕾がほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第五十四号を発刊することとなりました。

本誌には、畜友会の事業報告と共に先生方の寄稿や学生の夢と希望、そしてそれを実現する為に共に過ごした仲間達の体験記が記載されています。

是非、隅々までご覧頂けたら幸いです。

畜友会委員長 関 和真

目次

ふじみの発刊にあたり	関 和真	34
ふじみの畜友会	山田 和真	35
ふじみの畜友会	山田 和真	36
ふじみの畜友会	山田 和真	37
ふじみの畜友会	山田 和真	38
ふじみの畜友会	山田 和真	39
ふじみの畜友会	山田 和真	40
ふじみの畜友会	山田 和真	41
ふじみの畜友会	山田 和真	42
ふじみの畜友会	山田 和真	43
ふじみの畜友会	山田 和真	44
ふじみの畜友会	山田 和真	45
ふじみの畜友会	山田 和真	46
ふじみの畜友会	山田 和真	47
ふじみの畜友会	山田 和真	48
ふじみの畜友会	山田 和真	49
ふじみの畜友会	山田 和真	50
ふじみの畜友会	山田 和真	51
ふじみの畜友会	山田 和真	52
ふじみの畜友会	山田 和真	53
ふじみの畜友会	山田 和真	54
ふじみの畜友会	山田 和真	55
ふじみの畜友会	山田 和真	56
ふじみの畜友会	山田 和真	57
ふじみの畜友会	山田 和真	58
ふじみの畜友会	山田 和真	59
ふじみの畜友会	山田 和真	60
ふじみの畜友会	山田 和真	61
ふじみの畜友会	山田 和真	62
ふじみの畜友会	山田 和真	63
ふじみの畜友会	山田 和真	64
ふじみの畜友会	山田 和真	65
ふじみの畜友会	山田 和真	66
ふじみの畜友会	山田 和真	67
ふじみの畜友会	山田 和真	68
ふじみの畜友会	山田 和真	69
ふじみの畜友会	山田 和真	70
ふじみの畜友会	山田 和真	71
ふじみの畜友会	山田 和真	72
ふじみの畜友会	山田 和真	73
ふじみの畜友会	山田 和真	74
ふじみの畜友会	山田 和真	75
ふじみの畜友会	山田 和真	76
ふじみの畜友会	山田 和真	77
ふじみの畜友会	山田 和真	78
ふじみの畜友会	山田 和真	79
ふじみの畜友会	山田 和真	80
ふじみの畜友会	山田 和真	81
ふじみの畜友会	山田 和真	82
ふじみの畜友会	山田 和真	83
ふじみの畜友会	山田 和真	84
ふじみの畜友会	山田 和真	85
ふじみの畜友会	山田 和真	86
ふじみの畜友会	山田 和真	87
ふじみの畜友会	山田 和真	88
ふじみの畜友会	山田 和真	89
ふじみの畜友会	山田 和真	90
ふじみの畜友会	山田 和真	91
ふじみの畜友会	山田 和真	92
ふじみの畜友会	山田 和真	93
ふじみの畜友会	山田 和真	94
ふじみの畜友会	山田 和真	95
ふじみの畜友会	山田 和真	96
ふじみの畜友会	山田 和真	97
ふじみの畜友会	山田 和真	98
ふじみの畜友会	山田 和真	99
ふじみの畜友会	山田 和真	100

ふじみの

目次

畜友会の皆さんへ 畜産学科長・畜友会会長 桑山 岳人 1

ふじみの発刊にあたり 畜友会委員長 関 和真 3

同窓会だより

「ふじみの」第五十四号発行によせて 畜産学科同窓会会長 栗原 良雄 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会 便り 畜産振興会会長 半澤 恵 7

研究室だより

家畜繁殖学研究室 9
家畜育種学研究室 12
家畜生理学研究室 14
家畜飼養学研究室 16
畜産物利用学研究室 18
家畜衛生学研究室 19
畜産マネジメント研究室 22

第十八回厚木キャンパス収穫祭・
第一二六回体育祭各部門委員長より

楽しむ 統一本部委員長 3年 関 和真 54

愉快的仲間たち 特別企画委員長 3年 稲垣 悠平 55

笑いあり涙あり 宣伝隊長 3年 佐藤 麻衣 56

一生に一度の経験 神輿隊長 3年 中村 真実 57

第126回体育祭 体育祭委員長 3年 佐藤 志保 58

幻想曲^{ファンタジー} 櫓装飾委員長 3年 岩根 知咲 59

毎日装飾 装飾委員長 3年 鈴木 華子 60

家畜苑 家畜苑苑長 3年 大平 祐輔 61

編集後記 編集委員長 3年 小川 凌太 62

ふじみの寄稿原稿(教員)

畜友会に感謝 池田 周平 25

畜友会としての最後の6年間
—本当にお世話になりました— 谷口 信和 27
農大の5年間を振り返って 古川 力 29

集う学友

自慢話 4年 中河 海太 30

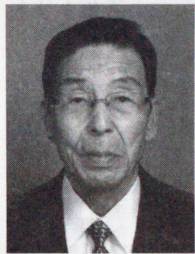
農大生活を振り返って 3年 長谷川 合歓 31
人生いろいろ 2年 小坂 秋人 32

大学生活を振り返って 1年 横川 紫乃 33

畜友会だより

平成二十九年畜友会活動報告 34
平成二十八年畜友会決算報告 35
平成二十八年年度収穫祭特別会計収支決算報告 36
平成二十九年畜友会予算 37
平成二十九年収穫祭特別会計予算 38
平成二十九年度畜友会役員 39
第十八回厚木キャンパス収穫祭 40
第一二六回体育祭事業報告及び結果報告 48
東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則 48

同窓会だより



「ふじみの」第五十四号発行によせて

東京農業大学農学部畜産学科同窓会

会長 栗原良雄

「ふじみの」第五十四号発行おめでとうございます。

卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

これから皆さんは畜産学科同窓会のメンバーになります。大いに歓迎いたします。

いよいよこれまで学んできたことを実践する機会が来たわけです。これからはそれぞれ活躍する環境が違いますが、その中で与えられた仕事に真摯に取り組む信頼を得るように頑張ってください。

あなた方はこれからの世代を担っていく大事な人材です。健康に気を付けて頑張ってください。大いに期待しています。

ます。

新人生の皆さんご入学おめでとうございます。

皆さんはそれぞれ夢を持って入学されてきたのではないかと思います。これから勉強はもちろんのことあらゆることに挑戦して自分の可能性を見出してください。いずれにしても無為に過ごすことはしないでください。

学生時代に得た友達は一生の宝です。良き友をたくさん作ってください。

最後になりましたが、これまで畜友会の役員をはじめいろいろな行事で活躍をされた方、大変ご苦労様でした。収穫祭をはじめ諸活動でいろいろな苦労があったと思います。その中で何かしら得るものがあつたと思います。それを大事にして下さい。

現在役員をされている方、これから何かと苦労が多いと思います。何事も経験です。学生のリーダーとして頑張ってください。

同窓会は、皆さんの活動を応援させていただきます

以上

平成二十九年十二月

畜産振興会



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会

会長 半澤 恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、二十七年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。まず本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から賜ったご寄付を農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生諸氏の奨学に生かすことを目途に、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。資産には、東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金（設立時）、賛助会員会費（受領実績…延べ八百六十四名）、一般寄付金（受

領実績…延べ百十一名）を加えて運営してまいりました。会の運営は、学内外の卒業生ならびに学科教員を中心に本会の役員としてご対応頂いてきました。

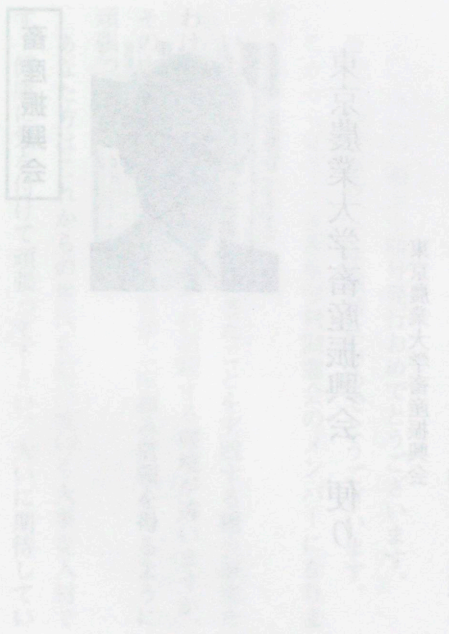
具体的な事業内容として、平成三十年一月現在、成績優秀者の奨学生への採用（毎年二、四年次生各学年二名、計六名、延べ九十七名）、優秀卒業論文賞の授与（毎年一名、計二十七名）を行ってきました。これらに加え、過去には姉妹校短期留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給（八名）、関連学会への学術論文掲載や学術集会での発表に対する奨学（二百七十五名）、ならびに経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行いました。さらに平成九年四月の厚木キャンパス開学から二年間は、本キャンパスには研究室が存在せず学生のみという状態だったことを鑑み、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌雄各一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士農場に繋養されました。

あれからはや二十年が経過し、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十七期の学科学生ならびに第十五期の博士前期課程大学院生および第十二期の博士課程後期大学院生が卒業します。平成二十七年十月には新学生会館が開館し、また、三年前よりコンビニエンスストアも導入されるなど、キャンパスの整備も徐々にすすんでおります。

さて本年四月からの農学部改組に伴い、畜産学科はその名称を動物科学科に変更し新入生を迎えることになりました。

た。同時に、既存研究室の名称が変更され、さらに畜産マ
ネジメント研究室は発展的に解消となり、畜産物利用学研
究室は食資源利用学研究室としてデザイン農学科(新学科)
へ異動する運びとなりました。また、バイオセラピー学科
の学生募集停止に伴い、動物科学科に動物行動学研究室が
設立されることになっていきます。これを契機に本会の活動
もひとつの区切りを迎えることとなります。皆さんのお手
元に本誌が届くころには、本会の今後の具体的な活動につ
いて、ご案内できることと存じます。

卒業生には本学で培った実学力をフル活用し、新たな立
場、新たな環境で多に活躍されることを、また在學生に
はかけがえない学生生活を充実したものとされることを
祈念し、振興会便りいたします。



研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は桑山岳人教授、岩田尚孝教授、白砂
孔明准教授のご指導のもと、大学院生二十名、四年生
三十一人、三年生三十九人で構成され、生徒同士で協力し
合いながら日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では動物の生殖や発生のメカニズムの解明に取
り組んでいます。具体的には、生殖細胞、胚、それに由来
する動物の産子の正常性におよぼすストレス、加齢そして
疾病の影響について、遺伝子やタンパクの発現、内分泌そ
して動物の行動などを対象に研究しています。また発牛工
学および生殖補助技術を応用して、絶滅危惧種などを含む
動物の遺伝資源の保存や増殖に役立てる技術の開発をめざ
しています。

三年生は生殖学の基礎的な知識、実験方法を身に付け
ると共に大学院生や四年生の研究活動を補助しながら興味
のある研究分野について理解を深め、研究テーマを決定し
日々先輩たちの指導の下研究を行っております。

当研究室では国内や海外で行われる学会にも積極的に参
加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。毎
日遅くまで研究に励んでいとも研究熱心な研究室です
研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会(四月)、論
文発表会(年数回)、収穫祭の文化芸術展での研究発表、

スポーツ大会(年二回)、サッカー大会(年数回)、研修旅
行、忘年会、卒業生送別会等があります。
繁殖学研究室は日々の研究、勉強と楽しい行事を両立し
ながら充実した研究室生活を送っています。

氏名 卒業論文題目 指導教員

相澤 卓海 異なるサイズの卵胞液がブタ初期胞状卵胞由来卵細胞層細胞複合体の体外発育に及ぼす影響 白砂

相澤 拓朗 加齢顆粒層細胞は体外発育卵細胞のミトコンドリアに影響を及ぼす 白砂

有原 若奈 黒毛和種における血漿中プロジェステロン濃度の年齢依存性変化の検討 白砂

石岡 宏介 エタノールアミンによる卵細胞のオートファジー誘起の可能性 桑山

石黒 愛 一度裸化処理した未発育卵細胞の体外発育培養系に関する研究 桑山

伊藤 洵 ブタ卵細胞期卵細胞のガラス化凍結保存に関する研究 桑山

江口 空 次世代シークエンサーを用いた脾臓細胞におけるINFγ応答性の網羅的解析 桑山

岡本 和真 エタノールアミンによる卵細胞のオートファジー誘起の可能性 桑山

鈴木 飛鳥 加齢がウシ卵細胞のスピンドル形成に及ぼす影響とその改善方法に関する研究 白砂

武田侑里香 ウズラの去勢が拘束ストレスによるコルチコステロン分泌反応に及ぼす影響 桑山

長島 拓志 動物園動物の常同行動に関する調査 桑山

中村 悠稀 老化因子S100A8、S100A9はウシ卵管上皮細胞で炎症性サイトカインを惹起する 岩田

福田 真奈 ホロホロチョウと比内鶏の科間雑種作出に関する研究 桑山

舟島なつみ リピートブリーダー牛における追い移植の有用性の検討 岩田

細田 桃子 S100A9が妊娠高血圧腎症発症因子や炎症に及ぼす影響 岩田

松崎 琢哉 ホロホロチョウの増殖に関する基礎的研究 桑山

松永 治子 カピバラにおける採精方法の確立 桑山

鬼沢 優里 ウシ血液中の免疫細胞種別におけるINFγ反応及び作用の検討 桑山

神尾 真帆 ガラス化凍結がウシ胚のミトコンドリアの性状に及ぼす影響 白砂

荏部 陽歌 カピバラにおける採精方法の確立 桑山

川原はるか 黒毛和種における血漿中プロジェステロン濃度の年齢依存性変化の検討 桑山

久保田悠真 培養形態によるヒト胎盤細胞の炎症応答性に関する検討 岩田

齊藤 七海 ニワトリの拘束ストレスに対するコルチコステロン分泌反応の個体間ならびに品種間の違い 桑山

佐瀬佐保子 S100A9が妊娠高血圧腎症発症因子や炎症に及ぼす影響 岩田

佐野 宙矢 カピバラの糞中性ステロイドホルモン動態に基づく妊娠判定方法の確立 桑山

白島 美音 ニワトリの換羽と甲状腺ホルモンとの関係 桑山

三好こころ 家禽の胚発生における骨形成過程の観察 桑山

諸橋菜々穂 カピバラの糞中性ステロイドホルモン動態に基づく妊娠判定方法の確立 桑山

矢板 都 加齢顆粒層細胞は体外発育卵細胞のミトコンドリアに影響を及ぼす 岩田

伊藤 百代 カピバラにおける採精方法の確立 桑山

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室は古川力教授、野村こう教授、高橋幸水助教のご指導の下、大学院生四名、四年生三十名、三年生三十九名によって構成され、室員各自が高い目標を持ち、互いに協力し合うことで日々の研究活動が続けられています。

当研究室は世界の家畜や野生動物が持つ有用遺伝子を探索し、その利用を目指すために、血液型、毛色、毛質、運動能力、抗病性、肉質、繁殖性を支配している遺伝子の探索や、その機能について追究しています。さらにはウシやヤギ、スイギュウ、イノシシ、ブタなどの家畜集団について遺伝的な違いを分析し、遺伝的多様性や品種の類縁関係、家畜の起源についての研究がおこなわれています。

当研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会などが行われ、年に一度行われる特別講演会では当研究室の卒業生を始め、畜産関係各分野でご活躍されている講師の先生を招き、室員それぞれが刺激を受ける良い機会となっています。室員は実験動物の管理やゼミ、定例委員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに、先生方や院生による学会発表などが精力的に行われています。

氏名 卒業論文題目

指導
教員

芦川 彩希 Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく二ホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

新井 智貴 アグーにおけるDNA多型を用いた分子系統学的研究 古川

石川 和子 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 古川

石崎 理佳 マイクロサテライト多型情報を用いた日本のデロック集団における遺伝的多様性と構造の評価 古川

伊藤 暁光 マイクロサテライトDNA多型情報に基づく二ホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

伊藤 優 マイクロサテライトDNA多型情報に基づくヤギの系統遺伝学的研究 古川

井村 光佑 ヤギ繁殖形質関連遺伝子の検出と多型に関する研究 野村

白倉 祥 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 古川

岡田 彩実 ウシの肉質関連遺伝子多型に関する研究 野村

千葉 丈樹 神津牧場におけるジャージー種の泌乳能力の統計遺伝学的解析 古川

小島 司 スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析 古川

張 匡 神津牧場におけるジャージー種の泌乳能力の統計遺伝学的解析 古川

小野寺未来 日本におけるマンクスロフタン種のDNA情報に基づく遺伝的多様性 古川

塚田 泰佑 Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく家畜スイギュウの系統遺伝学的研究 古川

柿崎 裕子 Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく二ホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

勅使河原将也 二ホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究 古川

北澤 健太 ヤギ繁殖形質関連遺伝子の検出と多型に関する研究 野村

中村 英樹 神津牧場におけるジャージー種の泌乳能力の統計遺伝学的解析 古川

北嶋 聡 マイクロサテライトDNA多型情報に基づく二ホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

平野 良河 二ホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究 高橋

城道 暁 ウシの肉質関連遺伝子多型に関する研究 野村

舟橋 水優 マイクロサテライトDNA多型情報を用いた日本のデロック集団における遺伝的多様性と構造の評価 古川

田島 綾乃 Y染色体遺伝子とミトコンドリアDNA多型情報に基づく二ホンイノシシの系統遺伝学的研究 古川

松永 正恵 二ホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子の流入に関する研究 古川

谷内 拓斗 ヤギ繁殖形質関連遺伝子の検出と多型に関する研究 野村

古川

三宅 朝也
マイクロサテライトDNA多型情報を用いた日本のデューロック集団における遺伝的多様性と構造の評価

山口 智也
日本におけるマンクスロフタン種のDNA情報に基づく遺伝的多様性

横井 光希
日本におけるマンクスロフタン種のDNA情報に基づく遺伝的多様性

吉方 孝至
マイクロサテライトDNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、平野貴准教授、原ひろみ助教のご指導のもと、大学院生二名、学部四年次生二十八名、三年次生三十八名で構成されています。本研究室では家畜・家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究をしています。今年はその研究対象動物はウシ、ウマ、ヒツジ、ニワトリ、ニホンウズラです。

学年毎の活動として、三年次生は生理学に関する基礎的な知識、技術を身につけるために講義、ゼミ、実験実習、二泊三日の富士農場実習を行い、日常的な実験動物の管理、院生、学部四年生の卒業論文の補助とともに実験別の知識を得るために夏休み直前から課題別実験を行います。四年次生はこれまで得た知識、技術をもって各々が興味を持った研究を引き継ぎ、あるいは新規のテーマを先生との議論により決定し、卒業論文に取組んでいます。院生は各々の学位論文のテーマで日夜研究に取り組んでいます。年間の主な行事は新入室員歓迎会、卒業生との交流会、収穫祭文展・模擬店、研修旅行、課題別実験成果発表会、卒業論文発表会、卒業生歓送会、年二回の納会、年一回の畜舎大掃除、週一回のゼミナールがあります。

家畜生理学研究室

氏名 卒業論文題目 指導教員

有村 一輝
ウシ29番染色体にマッピングされた黒毛和種子牛死亡の原因遺伝子探索

飯野 健
黒毛和種のRBP4遺伝子上流域に位置する多型の探索

占部 聡汰
ニホンウズラTLR4の対立遺伝子の調査

大石 哲士
競技馬の運動内容および状態別における赤血球膜浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動

大野 晋平
ワクチン卵の種類における抗ウイルス性タンパク質遺伝子DNA多型の解析

大和田陽介
ブロイラーの死鶏と増体重の動向の調査

叶内 匠
ニホンウズラTLR2^{ypa1}および2遺伝子の多型解析

北村 恋
ニホンウズラ血清中IgG濃度の系統間半差の明確化

小島 昂汰
ニホンウズラ培養可能腸内細菌の16S rRNA解析による同定

近野 蒼多
競技馬の運動内容および状態別における赤血球膜浸透圧脆弱性と血液性状の年間変動

佐藤 真子
黒毛和種のRBP4遺伝子多型と枝肉形質の関連

佐藤 玲衣
ニホンウズラHSP47の局在

澤野満里奈
ニホンウズラ血清中Ig濃度の系統間差異の明確化

鈴木 咲穂
ニホンウズラの核酸センサー分子の遺伝子構造の基礎的解析

鈴木 麻友
ELISA法によるウズラ血清中抗ペプチドグリカン抗体および抗LPS抗体の測定

竹田 英司
ウズラ盲腸糞由来細菌に対するウズラ卵白の抗菌性の検査

中川 裕規
黒毛和種の早産を伴う子牛虚弱症候群の原因遺伝子探索

普天間悠香 ニホンウズラ腸内細菌の寒天培地法による調査 原 半 澤

増尾 拓人 同条件で肥育した同一種雄牛産子の母方ハプロタイプと枝肉形質の関連 平 野 澤

梶谷 真優 黒毛和種下顎短小腎無形成症の候補遺伝子である PTPN11 の変異探索 平 野 澤

松林 憲 黒毛和種の SCD 遺伝子 3UTR の SNPs と枝肉形質の関連 平 野 澤

望月 健吾 ニホンウズラの個体識別用マイクロサテライトマーカーの選抜 平 野 澤

吉田 達也 ニホンウズラ TLR5 の対立遺伝子の探索 原 半 澤

渡辺 翔太 ウマ赤血球系幹細胞の二段階液体培養における増殖分化に関する研究 原 半 澤

渡辺みなみ 黒毛和種の SCD p.A293V 多型と枝肉形質の関連 平 野 澤

家畜飼養学研究室

飼料と管理、栄養の三本柱を中心に環境への配慮も含め安全で効率的な畜産物の生産をめざし追求しているのが家畜飼養学研究室です。本研究室では、バイパスアミノ酸が繁殖和牛にもたらす効果についての実験や、子豚の人工乳前期から後期への切り替えにおけるストレスの緩和、アニオンカチオン飼料を用いた乳熱・低カルシウム血症の予防などといった研究を幅広く研究しています。他にも研究対象動物としては、ヤギ・ニワトリ・ウズラ・ラットなど様々です。

研究室活動は、室員交流や団結力を深める為に歓迎会や納会など様々な行事がありました。飼料成分分析実験、富士農場実習、収穫祭への参加(文化芸術展・feed world 模擬店・焼き鳥)、スポーツ大会(年数回)、大掃除、週一回のゼミナール、卒業生祝賀会等があります。研修旅行ではよこはま動物園ズーラシアに行くなどさまざまな行事をしてきました。

先生方は実験や実習の場でも、事業においても優しく丁寧に指導を頂けるので、勉学や飼養管理技術について深く学ぶことができます。

平成二十九年年度の卒業論文題目は以下の通りです

氏名 卒業論文題目 指導教員

飯塚 亮介 バイパスアミノ酸製剤給与が繁殖和牛に及ぼす効果 野 口 澤

池田 啓裕 家庭動物における義肢+の普及状況に関する調査 黒 田 澤

太田 夏実 ウズラ卵の付加価値化への取り組み 黒 田 澤

奥野 竜一 アニオンカチオン飼料を用いた乳熱・低カルシウム血症の予防 黒 野 口 澤

菊池 斐奈 動物における同性愛研究の調査 池 田 澤

後藤 玲 ヤギにおけるキャンパス内草地での嗜好性について 黒 池 田 澤

清水 紗恵 池 田 澤

小山真里佳 ブロイラーにおける乳酸菌添加剤利用効果向上の試み 黒 池 田 澤

田中 友香 豚用精子保存液の保存性向上 池 田 澤

赤峰ひかり 野 口 澤

宮澤 彩音 池 田 澤

津田 愛海 ブタにおける飼料へのアスタキサンチン添加による免疫反応の調査 黒 野 口 澤

鶴ヶ崎世結 子豚の人工乳前期から後期への切り替え名取 実緒 におけるストレスの緩和 黒 池 田 澤

東海林佑太朗 高水分製造副産物の飼料化に関する研究 池 田 澤

柳 彩芽 アルパカの毛刈り後の変化 池 田 澤

山本 尚輝 ダチョウにおける飼料中エネルギー利用に関する研究 池 田 澤

吉場 聖奈 2-心系多価不飽和脂肪酸給与によるラットの肥満抑制に対する効果 池 田 澤

畜産物利用学研究室

本研究室は、多田耕太郎教授、入澤友啓助教のご指導のもと、4年次生31名、3年次生30名、総勢61名で構成されており、先進的な加工・分析技術を用い、新しい畜産食品の研究開発に取り組んでいます。

具体的には、乳・肉・卵に含まれる各種成分の化学・物理的特性や栄養・生理的機能特性を品種、個体、分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術である超高压処理を用いた新しい畜産食品の研究開発、有用微生物による発酵を利用した畜産発酵食品の研究開発、さらには未利用状態にある畜産副産物（内臓、皮など）を活用する研究を行っています。

得られた研究成果を通じて食品の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善および新しい加工法の開発に利用されています。

研究活動では、3年次にハム・ベーコンをはじめとする各種畜産食品の製造実習、また食品の一般成分分析や生菌検査等の実験手順や操作方法を学び、4年次の卒業論文実驗に活かして、より精度の高い研究を重ねていきます。年間を通して、新入生歓迎会、総会、納会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会等を行い、互いの絆を深め、研究室の更なる発展目指して活動しています。

氏名 卒業論文題目

指導員

明楽 萌	乳酸菌を添加した発酵ソーセージの製造に関する研究	多田 入澤
山田 峻奨	に関する研究	多田 入澤
石塚 千尋	高压処理を用いたソーセージ様食品の開発に関する研究	多田 入澤
矢口 楓貴	に関する研究	多田 入澤
遠藤 楓	新規発酵乳製品の開発に関する研究	多田 入澤
大里 雪乃		多田 入澤
垣内 佳介	発酵卵製品の開発に関する研究	多田 入澤
原島 諒		多田 入澤
北岡 勇樹	ホロホロチョウの肉が有する加工特性の研究	多田 入澤
豊川 泰世	解明に関する研究	多田 入澤
高麗 春香	豚内臓を用いた新規発酵ソーセージの開発に関する研究	多田 入澤
関根 安美		多田 入澤
真田 彰仁	液体麩を用いた畜産発酵調味料の開発に関する研究	多田 入澤
山田あさみ		多田 入澤
藤本龍太郎		多田 入澤
兵藤 実継		多田 入澤
坂井真由子	麩を用いた豚皮発酵食品の開発に関する研究	多田 入澤
高橋 謙寛		多田 入澤

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、鳥居恭司准教授、小林朋子助教のご指導の下、大学院生一人、四年生三十一人、三年生三十一名で構成されています。本研究室では、各自で希望する家畜別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ、動物たちの健康を維持するとともに飼育管理を通して各動物たちへの接し方、育て方を日々学んでいます。

調査研究としては、家畜衛生及び食品衛生を対象に農場や食肉のサルモネラ汚染、農場における牛白血病の感染要因や遺伝子解析、カビの汚染や発育、嫌気性菌・毒素の研究、などを大学院生、学部生と共に進めています。また収穫祭の文展では身近にある食中毒についてまとめました。内容としては、細菌の感染ルートにどのようなものがあるか、普段行っている手洗いでどれだけの菌が洗えているのかを実際に体験していただいたり、嘔吐したときの飛距離やどのような菌が潜んでいるかを知っていただいたりしました。それに加えて対処法や注意喚起などもおこないました。

主な行事として、月二回の定例会、新入生歓迎会、収穫祭、研修旅行、年末には餅つき、慰霊祭があります。これらの行事を通して各員は団結を深め、個々が目的を持って有意義な研究室活動を行っています。

なお、平成二十九年年度の卒業論文の題目は次の通りです。

辰巳 真彌	山羊乳を用いた乳製品の開発に関する研究	多田 入澤
湯山 真仁	解明に関する研究	多田 入澤
外内 万夏	原料乳の差異がカマンベールチーズの品質に与える影響	多田 入澤
長門石温子	ペपीーノの新規利用法に関する研究	多田 入澤
松村 知郁		多田 入澤
山田香菜子	高压処理を応用した冷凍畜肉製品の開発に関する研究	多田 入澤
吉田 昇平		多田 入澤
鈴木 愛美	日本と海外における酪農及び畜産物の歴史・現状調査	多田 入澤

氏名 卒業論文題目 指導教員

浅見 早智 銅添加飼料育成ブロイラーにおける浅胸筋変性と血液生化学変化 小林 居

天野 司 神奈川県A市におけるBLV感染実態の調査 小林 居

石倉 莉奈 PCR・RFLP法による牛白血病ウイルスの遺伝子型判別 小林 居

石橋 琢次 ワクモの薬剤感受性に影響を与える因子について 小林 居

磯貝 岳 *Salmonella Agona* の細胞侵入率による病原性の評価 小林 居

上原 爽 一食鳥処理場における変性(筋変性)と腹水症の発生状況調査 小林 居

大貫 永輝 次世代シークエンサーを用いた牛白血病発症牛のBLVの全長解析 小林 居

鎌川 遼 日本における牛白血病ウイルスの浸潤時期の推定 小林 居

岸 修平 一食鳥処理場における浅胸筋変性発生状況 小林 居

小谷 佳穂 鶏肉中のウェルシュ菌及び毒素遺伝子(CPE)保有調査 小林 居

坂田 光司 破傷風毒素に対するモノクローナル抗体の作製 小林 居

篠原 弘樹 リコンビナントポツリヌス無毒成分の作製とアジュバンド効果 小林 居

杉原 里咲 乳房炎ワクチンのSTARTVAC®の東京農業大学富士農場飼育乳牛に対する効果 小林 居

染谷 駿太 尿検査スティックを用いた血乳検査 野口 居

立花 和洋 神奈川県A市におけるBLV浸潤状況調査データベースの構築 小林 居

田中亜沙美 *Escherichia albertii* の増菌培養法の確立 小林 居

田中 勇輝 サルモネラの薬剤耐性 小林 居

中山 港作 豚肝臓内の *Clostridium* 属の調査 小林 居

二橋 涉 山梨県食鳥処理場搬入ブロイラーの *Salmonella* の分離 小林 居

島 明宏 銅添加におけるブロイラーの浅胸筋症への効果 小林 居

原 拓真 神奈川県A市における牛白血病浸潤調査 小林 居

本田 由奈 *Salmonella Infantis* の盲腸及び臓器由来の免疫機能(マクロファージ)に対する抵抗性に関する調査 小林 居

松原 優奈 *Salmonella Agona* の盲腸及び臓器由来の免疫機能(マクロファージ)に対する抵抗性に関する調査 小林 居

森 愛美 鶏肉中のウェルシュ菌及び毒素遺伝子(BacA/B)保有調査 小林 居

森田あや乃 カビ胞子の生残性の経時的变化 小林 居

盛元 菜月 銅添加飼料育成ブロイラーにおける浅胸筋変性と毛細血管分布 小林 居

湯田 詩織 神奈川県A市ドバト由来 *Campylobacter jejuni* のブロイラーへの定着性 小林 居

横田 千尋 *Actinomyces deniticolus* による豚扁桃陰窩膿瘍 小林 居

渡辺 あゆ 温度変化によるカビの発育像 小林 居

柏森 菜摘 鶏肉中のサルモネラ汚染調査 小林 居

木野内美海 厚木キャンパス内土壌における破傷風菌の分布調査 小林 居

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室は谷口信和教授と信岡誠治教授の指導のもと、研究室最後の年である平成二十九年度は四年生二十一人、大学院生一人の態勢で研究室活動を行いました。畜産の経営・経済や流通問題を軸として、生産・流通・販売・消費などの一連の過程と関連付けながらこれらの問題に対する解決策を見出すべく活動しました。また、畜産農家の後継者が多いことから、後継者養成にも取り組みました。

研修旅行は、一〇月下旬に福島県西郷村の独立行政法人・家畜改良センターを訪ね芝原分場の和牛の子牛哺乳ロボットや肥育施設などの視察研修を行い、本所では同センターの業務内容や繁殖技術などの研修を行いました。二日目は茨城県常陸大宮市の瑞穂農場を訪れ、日本でも最大規模のロータリーパーラーによる酪農施設と肉牛の哺育・育成・肥育農場を視察しました。同農場では瑞穂牛(和牛)のパーベキューをお腹一杯堪能して、同グループの経営内容と今後の展開の方向について意見交換、コスト高騰に対応した飼料用米など自給飼料生産への取り組みについて学びました。

卒論研究では、東京農大伊勢原農場棚沢圃場において二十アールの水田で飼料用米の栽培試験を行いました。また、東京農大の東日本支援プロジェクト研究に参画し福島県相馬市玉野地区の三戸の酪農家の牧草地で放射性セシウム除染対策に取り組みました。さらに、飼料用米の新たな

利用法として粉末を超微粉細し、米ゲルを作成し新食品素材の開発や利用法の開発に取り組みました。
平成二十九年度の卒業論文題目は次のとおりです。

氏名 卒業論文題目 指導員

岩村 侑奈	マウスへの粉碎米粉の給与による肥満・高脂血症改善効果について	信岡
大窪 誠聖	牧和牛子牛価格高騰下における一貫経営の収益性の検討	信岡
岡里 歩夢	牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発	信岡
岡田 悠里	富士開拓農協における家族農業経営の継承問題	信岡
菊地 厚志	粳米単独でのトウモロコシ全量代替飼料がブロイラーの筋肉発達と増体重に及ぼす影響	信岡
木村 優太	採卵鶏への飼料用米(粳、玄米)給与による産卵成績と経済性の比較	信岡
久保田晃平	飼料用米の生産コスト低減方策の検討	信岡
小松 美咲	米ゲルの二次加工品の開発	信岡

高橋 恒登 採卵鶏への飼料用米(粳、玄米)給与による産卵成績と経済性の比較

塚原奈津子	粳米単独でのトウモロコシ全量代替飼料がブロイラーの筋肉発達と増体重に及ぼす影響	信岡
塚本 紗衣	米ゲルの二次加工品の開発	信岡
中河 海太	飼料用米の生産コスト低減方策の検討	信岡
中山 翔一	採卵鶏への飼料用米(粳、玄米)給与による産卵成績と経済性の比較	信岡
平野 未稀	米ゲルの二次加工品の開発	信岡
前野 一騎	牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発	信岡
松尾 康平	粳米単独でのトウモロコシ全量代替飼料がブロイラーの筋肉発達と増体重に及ぼす影響	信岡

松田 栄作	家族プロイラー経営における労働時間管理の事例分析	谷 信 岡
松本 奈々	飼料価格高騰期を前後する「U」肥育経営の収益性の分析	谷 信 岡
三橋 冨羽	一般企業の農業参入の今後の展望・課題について——ファームの事例を中心として——	谷 信 岡
吉村 拓巳	牧草の放射性セシウム低減法の開発と畜産物の除染方策の開発	谷 信 岡
和田愛一郎	乳用牛・肉用牛における複合経営の経済性の検討——K牧場の事例分析——	谷 信 岡

ふじみの寄稿原稿(教員)

畜友会に感謝

家畜飼養学研究室
池田 周平

畜友会は、畜産学科が千葉県茂原に昭和二十四年に開設され、昭和三十四年に世田谷キャンパスに移転となり、一年生は世田谷、二年生以上は茂原という変則的な時期の昭和三十五年六月に畜友会の規定は制定され、翌年の昭和三十六年から、活動が開始されて以来五十六年を経てきています。

畜友会はもとも学生全員の親睦を目的として成立され、同じ専門の道を進むものが大学生生活四年間を有意義に、収穫の多きを期待して組織されたものであり、これが畜産学科の健全な発展につながるものである。とされていたほど、畜産学科の発展は、畜友会の円満な前進にかかっていました。

自分は、畜友会が発足して約十年後の昭和四十六年の春に畜産学科に入学しました。その当時の畜友会の役員の方々は、他学科の親睦会の役員も同様でありましたが、本学学生の全員が会員である農友会、全学応援団と同じくらしいの威厳と強い指導力を有しており、ちよつと近寄りやすい印象でありました。

しかし、入学した四月の新入生歓迎コンパ、五月のソフトボール大会、講演会、夏季の個人実習先の紹介、映画鑑

賞会、秋の収穫祭、初冬のソフトボール大会、翌年一月の卒業生送別会と様々な企画と我々への専門家への導きなどを通じて、次第に軟弱な自分が自然とたくましくなってきたのを他学科の友人達から、学年を進むごとに畜産人になつてきているというお褒めをいただきました。

さて畜産学科の発展と共に歩んできた畜友会は、大学創立九十周年に二十歳の成人となり、会員七百余名を擁する大世帯となりました。畜友会の前途は洋々と皆が信じ、進んでまいりました。

畜産学科は、厚木農場(現、厚木キャンパス)と一体的な立地条件を生かし得る学部、学科という観点から、改組(農学部・農学科・畜産学科)移転と決まり、平成十年四月から新たなスタートとなりました。同じく、畜友会も創設三十七年目に新たな地での活動が開始されました。茂原から世田谷キャンパスへの移転と同じように平成十年から二年間は、厚木キャンパスの学生と世田谷キャンパスの在校生とが分かれての勉強でありましたが、平成十二年から全学生が厚木に揃つての活動となりました。

今までの世田谷キャンパスでの活動と異なり、農学部は学科だけの活動となり、世田谷キャンパス農友会、他の団体との調整に多大な労力を費やしながらも着実に厚木キャンパスでの畜友会は活躍を進めてきたこと、感服しております。また、毎年開催される収穫祭の最後を飾る体育祭においては、農学部の3学科の活躍は目を見張るものがあり、欲目かもしれませんが、畜産学科が強い競技がだんだんと減らされていく状況に置かれても学生と教員が一丸となつて競技に向かう姿は、他の多くの学科に、尊敬を与えている存在となつてきておりますこともひとえに畜産学科発祥の茂原、世田谷、厚木と活躍の場は変われども畜産

を志す一万人を超える卒業生、八百名を超える在校生、教職員、畜産学科の発展を願う気持ちの表れと考えております。

畜産学科は開設以来約七十年を迎えようとしている現在、さらなる発展を期して、平成三十年の四月から、学科名称を「動物科学科」に変更することとなっておりますが、畜産学科ならびに畜友会の培ってきた「畜魂」は、今後とも引き継がれていくことを心から「祈念をいたしまして、終わりとさせていただきます」

長い間、畜友会の皆さまには、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

谷口信和
農学部畜産学科畜産マネジメント研究室
心の中の畜産風情(後編)

大学人としての最後の6年間

— 本当にお世話になりました —

農学部畜産学科畜産マネジメント研究室

谷口 信和

2 + 4 + 29 + 6 = 41 これは私が「教師」として大学に勤務した期間です。順番に名古屋大学経済学部での助手の2年間。愛知学院大学商学部で講師・助教としての4年間。東京大学農学部(大学院農学生命科学研究科)での助教・教授としての29年間。そして、東京農業大学農学部での嘱託教授としての6年間となります。

勤務期間の長さからみれば、東京大学が第一の故郷ですが、東京農業大学は第二の故郷の地位を占めることになりました。東大農学部で学生・大学院生として11年間学び、日本農業の発展のために研究(農業経済学)を通して貢献したいとの希望をもって、幸運にも大学教師の職を得ました。とはいえ、職場環境としては農学部↓経済学部↓商学部と、徐々に農業の現場からの距離は大きくなりました。

そうした中で母校に戻っての教師生活は、相対的に農業の現場に近いところへの復帰という点でも、研究環境という点でも大変に恵まれていました。そこでは多くの方々の支援を頂きながら、山口県・大分県・石川県等の県庁職員を研究員として定期的に研究室に迎え入れる形での研究交流に新たな道筋を切り拓くとともに、愛知県安城市農協(後にあいち中央農協)などの農業の現場との長期にわた

る協力関係の構築を通じて、農業生産者の方々が直面している課題の中に研究テーマを見出し、研究成果を少しでも現場にお返しするという研究スタイルを身につけることができました。

定年延長により64歳で定年を迎えた後に、本当に偶然にも東京農業大学に再就職のチャンスを与えて頂きました。心から感謝しています。しかし、高齢の両親との同居という生活上の制約から本厚木周辺に住宅を手当てすることができませんでしたので、自宅から片道2時間半前後の通勤を余儀なくされました。新宿から本厚木までの1時間程度の小田急線乗車は私に乗車後直ちに爆睡し、相模川鉄橋の通過音で目を覚まし、的確に本厚木で降車する能力を涵養してくれました。6年間で愛甲石田まで乗り過ごしたのは一度に止まりそうです。

とはいえ、長時間通勤は私が実質的に大学に滞在する時間を少なくする方向に働き、学生諸君と時間を気にしないで議論したり、談笑したりする機会を十分には保証させませんでした。できる範囲での努力は最大限にしたつもりですが、この点が学生の皆さんに対して最も申し訳なく思っていることの一つです。

農大に来てから大きく変わったことが四つあります。

第1はいうまでもないことですが、私の研究対象として畜産・酪農の分野が飛躍的に増大したことです。文献的な研究はもろろんですが、現地調査に行く回数が増大しました。農大の6年間で、日本農業に関してはそれまでの全期間で私が実施した畜産・酪農に関する現地調査数を超えたのではないかと感じています。

このことは私にとって日本農業の全体像を正確に理解する上での強力な刺激になりました。今日では、産出額べー

スで畜産（酪農）は全体の35%に達し、米（20%弱）や野菜（27%程度）を大きく超えているにもかかわらず、日本人の意識や研究者の研究対象という点からみて、農業の中で正當な地位が与えられているとはいえないからです。

第2は、畜産・酪農の現地調査が増えたにもかかわらず、耕種部門の調査機会がそれほど減りませんでしたから、全体としては現地調査を重視する研究姿勢が一層強まったことが指摘できます。このことは従来の耕種・畜産の「分離」という形で進んできた地域農業の専門化・規模拡大を通じた発展方向に対する反省や再検討の必要性を私に強く認識させ、新たな地域農業のあり方の研究に私を駆り立てる原動力となっています。農大の最後の数年間に北海道から南九州に至る畜産・酪農の現地調査を多数実施しますが、これが私なりの「農大の卒業旅行」ということになります。

第3は、ゼミ生に少なからぬ農業後継者の皆さんを迎え入れることになって、職業選択としての農業の意義を考へる機会が初めて与えられたことがあげられます。それまでは「農業関連の職業選択」といっても、公務員・農業団体職員・農業関連産業のサラリーマンになる希望をもつ学生の皆さんへの教育がほとんどで、農業に直接従事することになる学生の指導の経験は皆無といつてよかったですからです。たしかに、大分県の農業塾の校長を10年間務めて100人以上の卒業生を出しましたが、彼らはすでに農民であつて、そのキャリアアップへのお手伝いに止まりました。この意味で、やつと農業後継者の学生の皆さんへの教育・指導のことが分かりかけてきたところでの農大退職には少しばかりの心残りがあるといえるでしょう。

第4は、鈴木敏郎前農学部長からの依頼で栃木県那須塩

農大の5年間を振り返って

家畜育種学研究室

古川 力

あつという間に5年間が過ぎてしまいました。37年間の農林水産省や農研機構の研究機関では、千葉、つくば、盛岡、つくば、西那須野、つくば、熊本、札幌と転勤を繰り返していたため、この5年間は同じ机に座り続けた期間として畜産試験場の室長の5年半に次ぐ長さとなりました。

特に、農大にお世話になる前の9年半は研究管理に携わっていたため、研究機関に勤めていたものの実質的な研究から離れていました。念願の農大でお世話になることとなり、また研究を行うことができるようになった喜びは言い表せませんでした。

研究機関においては豚を中心に、肉牛、乳牛、ヒツジ、ヤギ、鶏の量的遺伝や血統解析について研究を行っていましたが、農大では、家畜育種学研究室のテーマである在来家畜などの動物資源の系統分化の研究に関わることになりました。扱うデータは量的形質からDNA多型へと変わり、分析手法もBLUP法など統計遺伝学的手法から集団遺伝学的手法へと、自分としては新しい手法を勉強しなければなりませんでした。

実は、それまで、育種のためには量的形質と血統情報さえ揃っていればよく、DNA情報では改良はできないと考えていました。実際、この20年間、BLUP法が実用化されてから家畜の改良はめざましく進んでおり、育種への貢献は実証されました。しかし、この方法では、同じ両親から生まれた全きょうだいは同じ期待値を持つこと

原市の千本松牧場という大規模法人酪農経営のコンサルティング業務を農大経由で引き受けることになったことです。これまでの私の大規模法人農業経営に対する支援活動は農民出自または家族経営から法人成りした大規模経営もしくはJA出資型農業法人に限られており、JASDAQに上場しているような一般企業（ホウライ株式会社）の農業経営の支援の経験は初めてです。相談を受けた時には正直言って不安がありました。が、「高齢」に向かうときほど新たなことへのチャレンジが必要だと判断して「清水の舞台」を飛び降りました。この仕事は農大退職後も継続することになっていきます。

みられるように、農大での6年間は私の大学教師としての「仕上げ」の時期となっただけでなく、次へのステップをも用意してくれたことになりました。それは単に勤務期間の長さという意味だけでなく、私の教師生活の上での大切な「第二の故郷」と呼ぶのに相応しい内容をもった空間だということができます。

研究室や学科の同僚の皆さんはもちろん、学部の様々な職員の方々には本当にお世話になりました。心から御礼申し上げます。

最後に、卒業生を含む農大生の皆さんにC・チャップリンの言葉を贈ります。

「お前が虹を探すのなら、空を見上げなさい。決して決して下を見てはいけない」

となり、個体が記録を得るまでは個体ごとの違いを考慮することはできません。全きょうだいであつても、親から受け取るゲノムは個体により異なっているのに、期待値としては親の育種価の半分を受け取ることとどめていたのです。農大で遺伝的多型を分析することにより、このことを育種に反映するためにはDNA情報が不可欠であることが実感としてわかりました。目から鱗の気分でした。

新しい研究に取り組んだと偉そうに書きましたが、実際にDNAの分析やデータ分析を行ったのは学生のみなさんです。学生と院生の頑張りのおかげで、大学院生はこの5年間に5本の原著論文を投稿してくれましたし、2本を準備中です。中でも、感慨深かったのはトウキョウウXの解析です。血統情報などの個体も基礎集団から同じような遺伝的寄与を受けていたのが、DNA情報では個体によって祖先の寄与が大きく異なることが明らかとなりました。また、血統がなくても基礎集団の構成を推定することができたのはびつくりしました。DNA恐るべしと悟った瞬間でした。

おかげさまでこの5年間は人生で最も充実した研究生生活を送ることができました。研究室の先生方学生のみならず心より感謝申し上げます。また、5年間の家畜育種学および動物遺伝育種学を受講していただいた学生のみならずにも、つたない授業を聞いていただいたことにお礼申し上げます。ありがとうございます。

自慢話

畜産学科

4年 中河 海太

はじめに、この「ふじみの」の集う学友というコーナーに携われたことを光栄に思います。こういった経験は多くの人が出来ることではないので本当に嬉しく思います。

不愉快なタイトルはさておき、まず簡単に僕の紹介をします。出身地は三重県の伊勢という所であの伊勢神宮で有名です。実家は漁業をしています。では、なぜ実家が漁業の僕が東京農業大学にいるのかというと、小さい頃から動物図鑑を開いて眺めるぐらいウシが好きでした。高校も地元農業高校へ行き、あの松阪牛を肥育していました。そして、高校の担任に東京農業大学への進学を勧めて頂き、晴れてその一員になることができました。

では、今から僕の自慢したいことを書きます。実は、昔からこういった経験は何度かしています。農業高校出身の方は分かりますが、農業高校では農業クラブというのがあります。そこで意見発表やプロジェクトの実行委員をさせて頂いていました。夜中まで発表文を考えたり、プロジェクトの日程や内容を計画したりと根気のいる作業で

したが、先生や友達に助けってもらったおかげで滅多に出来ない経験をさせて頂きました。この経験は、人生において最大の財産となりました。

そして、ついこの間の話ですが優秀卒業論文の卒論発表表がありました。信岡教授には稽古をつけてもらい、共同で卒論をしている久保田君にはアドバイスをもらったりと皆さんに支えられつつ頑張りました。しかし、本番はやはり緊張するものです。初っ端からマイク無しで発表を始めてしまいました。その後どうなったのかはご想像にお任せします。それより何より結果が物凄く気になります。でも、優秀卒論発表会に出られたことは一生に一度あるかどうかです。この経験は人生において最高の財産となりました。

こうして振り返ると、なかなか出来ない経験をしてきたんだなと改めて思います。正直、嬉しいです。でも、僕が書きたかった自慢はこの経験のことではありません。様々な経験をしてきましたが、僕はいつも誰かに助けられました。今回の卒論発表もたくさんの方のおかげで無事に終わることが出来ました。大学生活にしてもゼロからのスタートでしたが、幸運にも人に恵まれたので毎日楽しく過ごすことが出来ました。4年もかけて出来た仲間との持ちつ持たれつの関係こそが僕にとっては人生最大にして最高の財産です。自分の周りには助け合いの精神を持った仲間がたくさんいることが、僕の一番の自慢です。

おわりに、こんなに嫌味を全く感じさせない自慢話は良いですね。皆さんも今いる仲間、そしてこれから出会う仲間も大事にして下さい。それでは、皆さんお元気です。

農大生活を振り返って

畜産学科

3年 長谷川 合 歓

私は高校が農業高校でした。高校を卒業してそこから就職も考えました。しかしまだ農業について勉強したいと思い進学を決心し東京農大のオープンキャンパスに行きました。そこで技術練習生という制度を初めて知り練習生になりたいと決心しました。

技術練習生とは高校を卒業してから一年間農学部付属の富士農場で住み込みの実習をして実際の現場の技術や知識を身に付けることができる制度です。練習生は毎年八人選ばれます。私はその八人の中に一人に合格することができました。今までの人生の中で集団生活をしたことは一度も無く不安もありましたが、他の七人皆個性豊かですぐに打ち解けることができ毎日楽しい農場生活を送れました。

農場には乳牛、肉牛、豚、鶏など沢山の家畜動物がいます。毎日、座学では決して学ぶことの出来ない貴重な体験をさせて頂きました。印象に残っているのは肉牛の体重測定です。自分の何十倍もある巨体を測定器まで誘導していくかなくてはならない作業だったのでとても緊張しました。そして一年というのはあっという間で一年間お世話に

なった農場職員さん、一生の思い出や経験を作る事が出来た農場を離れる時はとても寂しかったのを今でも覚えていきます。

そして晴れて東京農業大学農学部畜産学科に入学しました。授業内容は座学が多かったので毎日農作業をしていたので慣れるまで時間がかかりました。共に作業した七人も同じ畜産学科に入ったので毎日顔を合わせる事ができて良かったです。

農大に入り最初の二、三年間は講義、サークル活動、アルバイトなどに精をだし、そして三年になり飼養学研究室へ所属することになりました。それまでの学生生活とはまた一味違う生活となりました。大きく変わったのは農大の各研究室で飼育している動物の飼育当番が加わった事だと思っています。当番作業をして改めて動物と触れ合うことの楽しさを実感しています。農大に入って改めて充足感を感じる今日この頃です。研究室に所属して人間関係の変化、新しい仲間、いろんな考えを持つ人達などに出会えて自分自身が日々成長している気がします。

これから卒業論文や就職活動をしていかななくてはなりません。研究が順調に捗るか、面接が上手くいくか等不安なことが多いですが自分が学んできたことや体験してきたことを生かして一歩ずつ前進していきます。

人生いろいろ

畜産学科

2年 小坂 秋人

ある目標を胸に東京農業大学に入学してからおよそ二年が経った。だが、そんな私にとんでもない事件が起きた。

私は畜産マネジメント研究室で飼料用米を用いた研究や六次産業についての研究をするために、この畜産学科を志望した。二年生になってからはより専門的な講義も増え、日本の動物産産の現状を深く知ることができた。これからの動物産産を発展させるためには、新しいことをいろいろ試す必要があると考え、私は飼料用米に注目していた。知れば知るほど早く研究室に入って、もっと深く知りたいと思うようになっていた。しかし、人生は甘くなかった。最初に述べたとんでもない事件というのは、畜産マネジメント研究室が今年度をもって閉鎖されることだ。驚愕したとともに、自分は何を目標に残りの学生生活を送ればいいのかだろうという絶望感に襲われた。いつまでも落ち込んでいても仕方がないので、畜産に興味を持った理由を思い出ししてみた。元々、おいしい食べ物を自分で作りたいという夢があり、そんな中で飼料用米を与えてできた畜産物に、ほかのものとは違う美味しさを感じたのである。こうなっ

しまったのも考え直す良い機会だと思い、別の方向から美味しい畜産物を作り出す研究をしたいと今は思っている。

話は変わるが、私は全学応援団吹奏楽部という団体に所属している。応援団と聞いて、学生服を着ている人かと思いが浮かべる人もいるかもしれないが、私は着ていない。応援団にはリーダー部、吹奏楽部、チアリーダーの三団体があり学生服を着ているのはリーダー部だけである。吹奏楽部の活動は世田谷キャンパスを中心に行われており、移動時間が掛かることから厚木キャンパスの部員が少ない。活動自体も忙しく、正直応援団と学業の両立は辛く、講義中に寝てしまうなど反省しなくてはならない場面が増えた。しかし、応援団に入って私は素晴らしいものを手に入れた。それは、苦楽を共にした仲間である。特に同期にはあらゆるところで助けられてきた。感謝の気持ちしかない。これからは私自身が皆の力になりたいと思う。

私は目標を一度は失ったが、そのおかげで凝り固まっていた考えを消去し、ゼロから目標を見つけるための機会になったと捉えることにした。残された時間は少なくなってきたが慌てずに、ゆつくり新しい目標や研究内容を決めようと思う。あと二年間、学業も応援団もアルバイトも、自分に降りかかること全てに後悔しないよう全力で向き合っていきたい。

大学生活を振り返って

畜産学科

1年 横川 紫乃

こんにちは、神奈川県出身の横川紫乃です。

私は幼い頃から動物や自然が好きで、高校入学当初から将来牧場で働きたいという漠然とした思いを抱えています。家はサラリーマン家庭だし、農業に携わっている知り合いもいません。でもなぜか農業に興味を惹かれたのです。そのころから、何の根拠もないのに私は東京農業大学に行くんだ、と思っていました。

農業をより実践的に学んでみたかった私は、そのまま大学に行くのではなく、高校を卒業してからこの大学の実習施設である富士農場で、一年間技術練習生として過ごしました。楽しいことばかりではありませんでしたが、ここで過ごした一年間は私にとって大きな収穫となりました。

そして入学を迎えた訳ですが、私は大学生活を送るにあたっての目標を二つ立てていました。一つ目は農業についての理解を深めること、二つ目は今までやってきたこととできなかったことに思い切って挑戦してみたいということです。この目標を達成するために、私は農家愛好会というサークルとボランティア部に入りました。

まず、農家愛好会ではどんな活動を行っているかという

と、いろんな農家さんや酪農家さんのお手伝いに行ったり、将来の農業について考える座談会に参加したりといった活動をしています。私はこのサークルに入って、自分の農業に対する意識が変化していくのを感じました。訪れたどの農家さんも自分のやりたい農業のかたちがはつきりとしていて、お話をしていると「あなたはどんな農業がしたいの?」とか「なぜ農業がやりたいの?」という質問が飛んできます。正直に言いますと、これらの質問にすぐに答えられない自分がいて、自分の目指す農業のかたちとは何なのか、貫きたい信念は何だろうと考える毎日です。将来農業をやっていくために大切なことだと思うので、今はたくさん悩んでいきたいです。

次にボランティア部についてです。ボランティア活動には元々興味があったのですが、今までは何も行動に移せていなかったのがこの機会にぜひ始めてみたいと思い、入部を決めました。ボランティア部では病院や献血のお手伝いをしたり、小笠原諸島で外来生物の駆除を行ったりと様々なことを経験でき、充実した日々を送っています。

最後に、この大学に入って良かったなと思えるように、常にチャレンジ精神を持って行動していきたいと思えます。これからは農業実習やボランティア活動を通じて、新たな人々との出会いやいろいろな体験をして、自分の世界を広げていきたいです。

平成 28 年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書 平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年度 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部 (単位：円)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考	
会 費	新入生 (H29 年)	0	2,100,000	2,100,000	畜友会費を徴収していない為
	編入生 (H29 年)	0	25,000	25,000	畜友会費を徴収していない為
	過年度分	120,000	2,170,000	2,050,000	在学生：10,000 円×12 名
普通預金利息	39	300	261		
前年度一般会計繰越金	5,263,726	5,274,590	10,864		
合 計 (A)	5,383,765	9,569,890	4,186,125		

支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考
収穫祭特別会計費	306,588	693,000	386,412	
ふじみの印刷費	286,200	300,000	13,800	
卒業祝賀会費	167,925	180,000	12,075	
卒業記念品費	171,250	220,000	48,750	750 円×215 名+版代 10000 円
新入生歓迎会費	0	150,000	150,000	来年度から新入生がいらない為
消耗品費	0	30,000	30,000	
備品	0	50,000	50,000	
雑費	1,080	30,000	28,920	振込手数料
予備費	10,000	7,916,890	7,906,890	過払い金返金
合 計 (B)	943,043	9,569,890	8,626,847	
収支差額：(A) - (B)	4,440,722	0	△ 4,440,722	次年度繰越金

平成 29 年度畜友会活動報告

平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 29 年

- 6 月 29 日 平成 29 年度畜友会定期総会
平成 29 年度畜友会・畜産学科収穫祭実行委員会 (統一本部) の
立ち上げ
(於 第一講義棟 1102 教室)
- 10 月 5 日 第 18 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 126 回体育祭厚木団結式 出席
(於 レストランけやき)
- 10 月 9 日 創立 126 年東京農業大学収穫祭全体団結式 出席
(於 世田谷キャンパス カフェテリアグリーン)
- 10 月 21 日 厚木パレード 雨天のため中止
- 11 月 2 日 豊受大神宮奉獻式 参加
- 11 月 3 日 第 18 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 11 月 4 日 第 17 回厚木キャンパス収穫祭 参加
3～5 日 (家畜苑、研究棟アート、神輿展示、特別企画、宣伝隊)
- 11 月 6 日 第 126 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 12 月 4 日 第 18 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 126 回体育祭厚木慰労会 出席
(於 レストランけやき)

平成 30 年度

- 3 月 20 日 畜友会誌「ふじみの」54 号発行
- 3 月 21 日 平成 29 年度 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
(於 厚木キャンパス)

平成 29 年度 畜友会予算案
(平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 5 月 31 日)

I. 一般会計予算

収入の部		(単位:円)			
科目	当年度	前年度	差異	備考	
会費	新入生 (H30 年)	0	2,100,000	2,100,000	
	編入生 (H30 年)	0	25,000	25,000	①
	過年度分	0	2,170,000	2,170,000	
雑収入	50	300	250	②	
前年度繰越金	4,440,722	5,274,590	833,868		
合計	4,440,772	9,569,890	5,129,118		

①今年度から規約改正により畜友会費を徴収しないため
②預金利息を含む

支出の部

科目	当年度	前年度	差異	備考
収穫祭特別会計費	523,000	693,000	170,000	
ふじみの印刷費	250,000	300,000	50,000	③
卒業祝賀会費	180,000	180,000	0	
卒業記念品費	193,000	220,000	27,000	④
消耗品費	30,000	30,000	0	
備品	50,000	50,000	0	
畜友会費返還金	2,152,500	0	▲ 2,152,500	⑤
雑費	30,000	30,000	0	
予備費	882,272	7,916,890	7,034,618	
合計	4,290,772	9,419,890	5,129,118	

③ 4 年生 193 名、ふじみの制作委員 20 名

④ 4 年生 193 名 × 1000

⑤ 2 年生 133 名 × 7500 + 3 年生 153 名 × 5000 + 4 年生 156 名 × 2500

平成 28 年度 収穫祭特別会計収支決算報告
(平成 28 年 6 月 1 日 ~ 平成 29 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計

収入の部		(単位:円)			
科目	決算額	予算額	差異	備考	
一般会計からの繰入金	693,000	693,000	0		
普通預金利息	0	0	0		
合計 (C)	693,000	693,000	0		

支出の部

科目	決算額	予算額	差異	備考
統一本部	139,837	310,000	170,163	①
宣伝隊	18,315	50,000	31,685	②
装飾	17,663	50,000	32,337	③
家畜苑	70,140	100,000	29,860	④
体育祭	60,633	130,000	69,367	⑤
雑費	0	3,000	3,000	
予備費	0	50,000	50,000	
合計 (D)	306,588	693,000	386,412	
収支差額 (C)-(D)	386,412	0	△ 386,412	

① 団結式、慰労会などの飲物代、料理代等
② 厚木パレード衣装代
③ 定規、ペンキ、ペン代等
④ 家畜搬入に伴う交通費、当日作業着代
⑤ 応援合戦衣装代

上記の通り報告する。

平成 29 年 6 月 24 日

畜友会会長 桑山 岳人 ㊟

監査報告書

畜友会会則第 9 章、29 条及び 30 条の規定に基づいて平成 29 年 6 月 11 日に平成 27 年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。

平成 29 年 6 月 11 日

原 ひろみ ㊟

山口 智也 ㊟

平成 29 年度畜友会監査委員

高橋 幸水 ㊟

織田 聡美 ㊟

平成 29 年度畜友会役員

平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日

役職 (教員)	氏 名	研 究 室
会 長	桑 山 岳 人	家 畜 繁 殖 学 研 究 室
副 会 長	高 橋 幸 水	家 畜 育 種 学 研 究 室
	多 田 耕 太 郎	畜 産 物 利 用 学 研 究 室

執行委員	氏 名	研 究 室
委 員 長	3 年 関 和 真	家 畜 育 種 学 研 究 室
副 委 員 長	2 年 水 澤 洸 大	未 定
庶 務	3 年 大 平 祐 輔	家 畜 衛 生 学 研 究 室
	2 年 原 水 穂	未 定
会 計	3 年 砂 原 香 夏 子	家 畜 繁 殖 学 研 究 室
	2 年 畠 山 良 太	未 定
企画・渉外	3 年 石 井 ゆ き こ	畜 産 物 利 用 学 研 究 室
	3 年 和 田 未 来	畜 産 物 利 用 学 研 究 室
	2 年 石 堂 董	未 定
	2 年 竹 内 豊	未 定
編 集	3 年 小 川 凌 汰	家 畜 生 理 学 研 究 室
	2 年 池 内 美 里	未 定
監 事 (教 員)	原 ひ ろ み	畜 産 生 理 学 研 究 室
	黒 澤 亮	家 畜 飼 養 学 研 究 室
監 事 (学 生)	3 年 織 田 聡 美	家 畜 衛 生 学 研 究 室
	2 年 上 江 洲 安 志	未 定

※学年は平成 30 年 3 月現在

特別会計予算

(平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計予算

畜友会援助費

収入の部 (単位：円)			
科 目	H29 年度	H28 年度	差 異
一般会計からの繰入金	523,000	693,000	170,000
合 計 (A)	523,000	693,000	170,000

支出の部				
科 目	H29 年度	H28 年度	差 異	備考
統一本部	160,000	310,000	150,000	①
宣伝隊	50,000	50,000	0	
備品費	0	0	0	
特別企画	0	0	0	
装飾	50,000	50,000	0	
家畜苑	80,000	100,000	20,000	②
体育祭	130,000	130,000	0	③
雑費	3,000	3,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計 (B)	523,000	693,000	170,000	

- ①開き等が三学科・総務合同で行われ、お酒代・料理代が削減される為
 ②家畜苑衣装費削減の為
 ③・槽設置(1日分)、体育祭練習(1日分)、及び体育祭当日帰りの交通費給与の為
 ・1年生、2年生のニッカ及び足袋がたりない為

農友会学科助成金

収入の部 (単位：円)				
科 目	農友会厚木支部助成金			備考
	H29 年度予算額	H28 年度決算額	差 異	
畜産学科助成金	1,182,000	1,330,977	△ 148,977	
預金利息	0	0	0	
合 計	1,182,000	1,330,977	△ 148,977	

支出の部 (単位：円)				
科 目	農友会厚木支部助成金			備考
	H29 年度予算額	H28 年度決算額	差 異	
1 事務費	1,000	596	404	
2 記録費	0	0	0	
3 公用費	2,000	2,000	0	
4 交通費	21,000	21,000	0	
5 神輿代	123,000	116,953	6,047	
6 パネル代	141,000	134,900	6,100	
7 応援合戦・衣装代	155,000	139,938	15,062	
8 学内装飾費	347,000	514,434	△ 167,434	①
9 収穫祭体験企画費	389,000	399,644	△ 10,644	
鋼管リース代	81,000	108,480	△ 27,480	②
運搬代	135,000	131,517	3,483	
装飾代	150,000	122,325	27,675	③
活動運営費	23,000	37,322	△ 14,322	
10 雑費	3,000	1,512	1,488	
合 計	1,182,000	1,330,977	△ 148,977	

- ①垂れ幕設置業者の変更の為
 ②レンタル業者変更の為
 ③家畜苑門を作り直す為

第十八回厚木キャンパス収穫祭・第一二六回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

今年度第一八回収穫祭及び第一二六回体育祭畜産学科統一本部の活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動・神輿作成・研究棟アート・特別ステージ企画・家畜苑・櫓装飾・体育祭演舞を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては、夏季休暇から各部門活動が本格的に始まり、円滑に進めるべく、先生方をはじめ第一八回収穫祭実行本部・農学科統一本部・バイオセラピー学科統一本部との連携をうまくはかることで成功へと一生懸命に進みました。

畜産学科統一本部全体の活動としては、新一年生親睦会、新入生歓迎相模川BBQを開催し、統一本部の魅力を伝えられるように試行錯誤しました。また、例年と同様に定期総会・懇親会・慰労会を行いました。また、世田谷キャンパスと合同で、全体団結式に参加させて頂きました。残念ながら今年の厚木パレードは雨天のため中止でしたが、来年こそは楽しみにして下さっている方々へ野菜とともに笑顔と熱気を届けたいと思います。第一二六回体育祭では畜産学科全体が勝利へと一致団結し、感動を与えることができた体育祭だったと思います。収穫祭・体育祭ともに大成功のもと幕を閉じることができました。

来年度は先輩方から引き継いだ伝統とともに、新しい企画を取り入れながら活気に満ちた収穫祭・体育祭を作り上げたいと思います。

特別企画

今年の特別企画は、先輩、後輩を含めとても人が良いメンバーで充実したシーズンを過ごすことができました。ステージ企画を考える時に、なかなか決まらず最後の最後まで焦りと戦ってきました。しかし終わってみると達成感と同時に寂しさも感じました。今年の特別企画の先輩二人は、人柄もよくまた情熱的な人たちでした。そんないい先輩たち恵まれ、今回の企画も無事終えることができたと思います。

企画を考えていく中で、ここではこうしたほうがいいのかなど、どう楽しませるかが重要になってくるためとても大変でした。総務部の人や音響との打ち合わせなど、初めてのことが多く右も左もわかりませんでした。そんな中、他学科の特別企画の人たちや手伝ってくれた後輩たち、アドバイスをくれた先輩方たち、みんなの協力もあってできたことだと感じたとともに、今回のステージ企画ではないところで得たものが多かったです。ほんとにやってよかったと思います。

また、来年からは自分たちが上に立つ立場なので、去年の先輩たちを見習い自覚と責任を持って、楽しい企画を考えていきたいと思っています。また良い点は下に受け継いでもらって、いつまでも特別企画が畜友の中でも、特別な存在であってほしいと思います。みなさん今年はありがとうございました。



宣伝隊

宣伝隊は収穫祭を宣伝するために、さまざまな場所で活動してきました。

八月には、あつぎ鮎祭りや全学応援団のリーダー公開、ジャズナイトフェスティバルに参加しました。それぞれのイベントでうちわ配りや、農大名物の大根踊りを披露しました。

九・十月には、本厚木駅など小田急線各駅でビラの配布や、駅周辺のお店にポスターやビラを置かせて頂く、店回りなどの活動を行いました。

九月十日には本祭の抽選会で協賛をして頂いた福島県矢吹町を訪問し、お礼を込めて大根踊りを披露しました。

十月二十一日に厚木一番街で行われる予定だった厚木パレードは、台風の影響で残念ながら中止となってしまいました。来年度は今年度の分も盛り上げていけるようにしたいです。

収穫祭当日の野菜無料配布・抽選会は、ともに大盛況でした。今年度から抽選会の景品は、農大と連携を結んでいる地域や企業から協賛して頂いた物を使用しました。

今年度は、昨年度よりも来場者数が二千人ほど伸びましたが、雨が多く厚木パレードなど中止となった活動もありましたが、当日は天気にも恵まれ、企画等も無事成功させることができました。宣伝隊の努力の成果が発揮できて良かったです。来年度も今年度以上に、楽しんで活動できるようにしたいと考えています。

神輿

今年度の神輿部門の活動内容は、厚木キャンパスの新学生会館前での展示と学科対抗の神輿人気投票、キャンパス内での練り歩きでした。毎年開催されている厚木一番街での厚木パレードは、雨天により中止となってしまいました。

今年度は八月から活動を開始し、三年生一人、未経験の二年生三人という少ない人数で約三か月間活動し、収穫祭二日前に神輿を完成させることができました。伝統的な畜産学科の神輿の型を崩さず、メインの堂が目立つように周りをシンブルに黒と金のみで統一し、正面の門には畜産学科のマークを付けました。今年の堂の部分は一本ずつ時間をかけて作った竹を付けたり、障子を張り、梅の木を彫るなど立体的でリアルな堂にすることができました。堂の上には、春夏秋冬をテーマにした彫り物をつけました。春、夏、冬を二年生三人がそれぞれ作り、秋を一年生に作ってもらいました。また、色塗りやグラデーションを櫓部門の方から教わりながら作りました。これまでにない面白さや、各々の個性が出ている神輿ができました。残念ながら人気投票で1位を取ることはできませんでしたが、たくさんの方からお褒めの言葉をいただけたのがとてもうれしかったです。

来年度は新しいことにたくさん挑戦していき、メンバー全員の個性があふれる神輿を制作したいと思えます。来年度こそは優秀賞を取れるように頑張ります。



体育祭

今年度の体育祭では、昨年に農学部が上位三位を独占したという快挙のプレッシャーの中で行われました。「サバンナ」の力強さと雄大さをテーマに、他の学科では類をない独特の演舞構成と衣装で臨みました。

体育祭当日の応援合戦では、演目順番が一番ということもあり緊張はありましたが、練習以上の完成度と自信のある演技で満足のいく結果となりました。また、力を入れていた競技の部では、玉入れ、学科リレー、先生ががんばって♡、綱引きで好成績を残すことができました。玉入れではどの学科よりも多くの玉を入れることができ、綱引きでは準決勝まで残ることができました。昨年一位だった農学科との決勝戦で、とても熱く盛り上がった試合となりました。残念ながら、今年度は作昨年度の順位を超えることは叶いませんでしたが、来年度は優勝を目指して、全員で一致団結してがんばりたいと思います。また、来年度からは新学科増設や畜産学科の名称変更などもありますので、気持ちを改めて新鮮な気持ちで再び体育祭の歴史を刻みたいです。来年度もよろしくお願ひします。

櫓

櫓部門は大きなパネルに各学科を象徴した絵を描き、毎年行われる体育祭で展示します。その際に全学科で順位づけがされるため、上位入賞を目指し夏休みから垂木つけなどを始め、パネル設置を含めると十一月頭までの三か月間、櫓メンバー四人で奮闘しました。今年度は台風の影響で活動が延期になってしまいうなど、作業に支障をきたす出来事がありました。最終的には今年の三年生らしい素敵な櫓が完成しました。

今回の櫓は畜産学科の伝統を残しつつも、例年とは色や絵のタッチが一味違うもので、メインに羊を用いるという歴代初の試みもしました。そのため、色合いやグラデーションのやり方で壁にあたることもありましたが、納得のいくまで試行錯誤をする先輩をみて、自分自身も最後までやるべきことができたと思います。背景には今年のテーマである「ファンタジー」に相応であるピンクを使用し、唯一横方向のグラデーションを施しました。ファンタジーといっても全て空想的なのではなく、葉っぱの筋の入り方などは本物のように描いているので二つの世界観を楽しむことができ、より一層惹きつけられる作品になっています。

来年度は先輩が引退してしまい、後輩という新たなメンバーと共に活動していくことになるのは寂しさや不安もありますが、後悔のないように皆で協力しながら素敵な櫓を作り上げたいと思います。



研究棟アート

装飾部門では毎年、収穫祭の研究棟アートとして大きな垂れ幕を作り、学内装飾を行っています。今年度、湘北短期大学側には、三年生がタイをモチーフにデザインしたゾウと小鳥をカラフルな模様と共に描いた垂れ幕。けやき食堂側には、二年生がデザインした厚木キャンパスの三学科を象徴する秋の野菜と草花、四年にちなんだ天然記念物の尾長鶏を描いた垂れ幕を飾らせていただきました。

装飾部門の活動は六月の布選びから始まり、夏休みの開始と同時にミシンを使つての作業に入ります。まずは布と布を繋ぐための耳づくり。たくさん布をしつかり繋げるために、何日もかけて数百もの耳を作ります。九月に入ると、体育館に布を全て広げて下書きが始まります。A4サイズだった原稿を何メートルもの布に書き写すのは至難の業でした。九月下旬、ついにペンキで大きな絵を描き始めます。真っ白な布に様々な色がついていくと、垂れ幕の完成への期待と興奮でいっぱいになりました。すべての絵が完成し、ロープを通した時の達成感忘れられません。

収穫祭期間中は天候にも恵まれ、鮮やかな垂れ幕が青空に映える様子が目に焼き付いています。今年度の研究棟アートを完成することができましたのも、皆様のご協力のおかげです。有難うございました。来年度も素晴らしい作品を作れるよう精進いたしますので、ご声援の程よろしくお願いたします。



家畜苑

今年の家畜苑は、三年生三人、二年生二人の合計五人でシーズンを送りました。人数がとてもしなかつたので他の部門や、一年生の力をたくさん借りました。そのおかげで無事収穫祭を終えることができました。

家畜苑の作業の内容は、第一講義棟下の広場に設置する家畜苑門、撮影用パネル、展示する家畜の説明パネルと背景パネル、案内看板を作成し、収穫祭の直前には家畜を展示する際の小屋を作成しました。また、収穫祭当日には、牛のブラッシング体験、ひよこのふれあい体験、バター作りを来客の方に体験していただきました。説明パネルを使った〇×クイズも行い、たくさんの方に参加していただきました。さらに今年度は、トラクター展示を初めて行い、こちらにもたくさんの方にみていただきました。

去年の反省を生かし、今年度は八月中盤から作業を開始しました。しかしなかなか全員そろって活動できる日がなく、夏休み中はあまり作業が進みませんでした。夏休みが終わってからもなかなかやる気スイッチが見つからず、作業のスピードは遅かったです。十一月に入りさすがに危機感を感じ、そこからはF1レーサーもびつくりするくらいのスピードで作業を進め、なんとか収穫祭に間に合わせることができました。いろいろな人の協力があったので家畜苑の成功だと感じています。ありがとうございました。

来年度もたくさんの方に頼り頼られ、みんなで協力してシーズンを最高に楽しみたいと思います。



【結果発表】

総合順位	五位
競技の部	二位
応援合戦の部	十四位
櫓装飾	六位

東京農業大学農学部畜産学科畜友会 「畜友会」会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
 - (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
 - (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
 - (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
 - (5) その他第二条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
 - (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

第六条

- (3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。
- 本会は次の役員を置く。
- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 執行委員
- | | |
|-------|----|
| 委員長 | 1名 |
| 副委員長 | 2名 |
| 庶務 | 2名 |
| 会計 | 2名 |
| 企画・渉外 | 2名 |
| 編集 | 2名 |
| 監事 | 4名 |
- 第七条 (1) 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。
- (2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。
- 副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。
- 第八条 (1) 本会には、連絡委員を各学年に置き、執行委員会の決定事項を会員に伝達する。
- 役員および連絡委員の選出および任期
- 第九条 (1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会

長および監事は、会長が畜産学科教職員の
中から推薦し、総会において決定する。

(2) 執行委員および連絡委員は、総会において
決定する。その任期は原則として1年とし、
再任を妨げない。

第四章 総会

- 第十条 (1) 総会は定期総会とする。
- (2) 総会は正会員および特別会員を持って構成
され、本会の最高意思決定機関とする。
- (3) 定期総会は原則として年一回、六月に会長
が招集し、開催する。
- (4) 臨時総会は会長が必要と認めた場合ならび
に正会員および特別会員総数の4分の1以
上の同意を得て開催目および招集理由を記
載し、会長に提出する時招集開催すること
ができる。
- 第十一条 総会開催は七日以前に公示しなければなら
ない。
- 第十二条 (1) 総会は正会員および特別会員の4分の1以
上の出席により成立する。
- (2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長
に一任する。委任状は総会の定足数に含ま
れるが、正会員および特別会員の5分の1
を上限とする。
- (3) 委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条

定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告
2. 次年度の役員
3. 次年度の事業計画および収支予算
4. 会則の改正

その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互
選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指
名することができる。

第十五条

議長は書記2名と議事録署名人2名を選出す
る。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教
職員とする。

第十六条

総会の議決は出席者の過半数によって議決さ
れ、可否同数の場合は議長の決するところ
による。

第十七条

総会出席者により執行委員の不信任を可決す
ることができる。但し、この場合の出席者
は委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

- 第十八条 (1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機
関たる執行委員会を構成する。
- (2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員
会に出席することが出来る。
- 第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集
する。執行委員会は執行委員の3分の2以上

により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条

執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的の遂行に関する一切の会務を執行処理する。執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十一条

連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。

2. 一、二次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条

本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条

本会の運営は繰越金を以つてこれにあてる。

第二十五条

(1) 会費は平成29年度より徴収しない。

第二十六条

本会の会計は、所定の形式に従つて処理し、

決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条

(1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もつて執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条

(1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条

監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条

監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認められた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条

本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条

本会は平成31年度定期総会において平成31年度の各種活動報告の承認をもつて解散とする。また、残金があつた場合はその総額を平成31年度定期総会終了後に東京農業大学農学部厚木キャンパス農友会に寄付するものとする。

第三十三条

本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科「畜友会」規約を平成元年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則を制定した。その後、平成23年6月23日、平成29年6月29日に順次会則の一部を改正し、これを施行する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

- 第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。
- 第二条 収穫祭は東京農業大学農学部厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

- 第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。
1. 統一本部
 2. 宣伝隊実行本部
 3. 特別企画実行本部
 4. 学内装飾実行本部
 5. 家畜苑実行本部
 6. 体育祭実行本部
- 第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。
- 統一本部顧問 若干名
統一本部委員長 1名
統一本部副委員長 1名
統一本部会計 1名

各実行本部顧問 若干名
各実行本部委員長 各1名
各実行本部会計 各1名

- 第五条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。
- (2)統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。
- (3)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。
- 第六条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。
- (2)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。
- (3)各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。
- 第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。
- (1)6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

る。
本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

第三章 会計

- 第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。
- 第九条 予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。
- 第十条 会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。
- 第十一条 決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章 付則

- 第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。
- 第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施す

楽しむ

統一本部委員長

3年 関

和 真

大学生活も早三年が過ぎ、入学したのがついこの前のように感じます。東京農業大学に入学してほんとたくさんの人と巡り合えました。横の繋がりだけではなく縦の繋がり、先生方とも関わりこの大学生活で自分は成長できたと思います。そんな中でも統一本部の活動がやはり一番印象に残っています。畜産学科統一本部に入るきっかけとなったのは入学してすぐに前統一委員長の鶴ヶ崎世結さんに声をかけていただいたからです。今では声をかけていただき本当によかったと思います。1年生の時活動してみてもこんなにも楽しく、楽しい活動があるんだと思いました。2年生にある前に世結さんに「副統やってみない？」と言われてはじめて戸惑いました。自分にみんなをまとめる力はあるのか。ちゃんとやっつけていけるのか。と不安はたくさんありました。世結さんに楽しくやればいいよと言われなにかが吹っ切れるうらうらうと思いました！

今年も総勢33名で活動し波乱万丈なシーズンでできました。収穫祭は新しい企画などを行い満員御礼で終えることができました。体育祭は一昨年在優勝、昨年在準優勝と輝かしい成績で物凄いプレッシャーを感じました。体育祭当日は天気にも恵まれ、競技2位・応援合戦14位・パネル6位・総合5位の結果でした。ものすごく悔しく、結果発表の時には自然と涙がこぼれてしまいました。やはり農学科が強かった・・・。ですが、応援合戦では今までで1番のできたし、踊っているときみんな笑顔で満足しま

愉快な仲間たち

特別企画部門委員長

3年 稲垣 悠平

今年度畜産学科統一本部特別企画部門委員長を務めさせていただきました。畜産学科三年稲垣悠平です。

特別企画に出会ったのは一年生のシーズンの時でした。怖そうなお先輩二人と愉快なお先輩一人のところにたまに顔を出す程度でした。二年生になり配属された部門は特別企画で、同期のメンバーは方言バリバリの見た目がいかついおじさんとちゃらんぼらんしている女の子でした。かなりの不安を抱えながらシーズンが来るのを待っていたのもつかの間、女の子がやめてしまいました。同期のメンバーはいかついおじさんの松岡亮太一人となっていました。

特別企画の先輩の一人山口智也さん(ぐっさん)は、一年生の時の怖い先輩という印象と違いつつも後輩思いで仕事ができずごく優しい先輩でした。特別企画の企画長としての仕事を一から教えてくれました。もう一人の先輩はももクロが大好きでリクガメをたくさん飼っている塚田先輩です。塚田先輩はいつも場を盛り上げようと面白くばかなことをいっつもしてくれていました。学校のだれもが知っているといつも過言ではない程の顔の広い先輩でした。二人の先輩・亮太と一緒に過ごしたシーズンは本当に楽しい日々で二年生のシーズンが終わってしまいました。

先輩たちが引退され、同期の亮太と先輩としてやっつけていけるのかなと不安もある中新たなメンバー二人がやってきました。

まず一人目は、一年生の時から手伝いに来てくれていた原水穂(原ちゃん)です。原ちゃんは本当にまじめにコツコツと仕事を任せてくれる優等生でした。原ちゃんには二年生企画の企画長を任

した！楽しむをモットーに活動にのぞみ、自分は満足のいくシーズンだったと思います！

統一委員長という役職が終わり、達成感と寂しさが残ります。無事終えることができたのも先生方・三学科統一本部のみんな・総務部・応援部・研究室などの支えがあったからだと思っています。特に3年生にはほんと助けられました。自分以上に立つような人間じゃないし、引つ張って行く力もないけど、3年生15人に支えられて感謝でいっぱいです。ほんとうにありがとう。1・2年生は元気がよくいつも雰囲気明るくしてくれて、助かりました！来年度から畜産学科は改名し動物科学科として新しいスタートを切ることにしました。ですが変わらず明るく楽しくやっていってほしいです！

自分の後を継ぐ次期統一委員長は「水澤 洸大」です。彼はチャラく見た目はいかついですが、情に厚く思いやりのある男です。彼のもとには人が集まり自分が持つていないものをたくさんもっています。そんな彼だからこそ自分の後も任せました。困ったときは俺でもいし周りの人に助けてもらいなね。来年は洸大らしい統一を築き上げて楽しくやればいいからさ！期待してます！！

最後になりますが、桑山学科長を始めとする諸先生方におかれましては多大なご尽力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。更なる畜産学科の畜友會の益々のご発展と幸多からんことを祈って本年度畜産学科統一本部第68代目と統一委員長の最後の言葉とかえさせて頂きます。誠にありがとうございました。

せることにしました。シーズンが始まってからは企画長として会議に参加したり、企画の内容を考えたり、進行台本、その他仕事をくまなくこなしてくれました。仕事にしろ過ぎて程仕事をしていたので、来年度はもつと仕事を分け合ってください。

もう一人は亮太と似ていてあまり仕事もせずに遊んではかりいた谷洋介です。洋介はお調子者でふざけてばかりでしたがやるときはやる、オンとオフがしっかりしている男でした。洋介には司会者という仕事を任せました。持ち前のトーク力を生かして観客参加者を楽しませてくれました。そんな洋介には次期畜産学科統一本部特別企画部門委員長を任せることにしました。企画長を委員長にしないという異例ですが、少しでも自分の仕事に責任をもつてメンバーをまとめてほしいと思ひ谷洋介に委員長を任せることにしました。彼が委員長なら特別企画歴代の中でもトップクラスに面白い特別企画を作ってくれたいと思います。みんなと協力してがんばれ！

そして、二年間特別企画の同期メンバーと一緒にやっつけてくれた亮太には感謝の言葉しかありません。自分は表向きは仕事をしていたらいいことをしていたかもしれませんが、企画の内容の案・導入の音楽・司会の台本などほかの人たちからはわからない企画を練っている段階では、亮太なしでは本番を迎えられなかったと思います。本当にさぼってばかりで寝てばかりでほかの部門にも迷惑をかけていた亮太ですが、スイッチが入ったらとことんやっつけてくれる素晴らしい男でした。本当にありがとう。大学生になってもみんなで協力して一つの企画を企画・運営できる特別企画部門に所属できて本当によかったです。ほかの学科のみんなとも仲良くなれてとても楽しい時間でした。

先輩であるぐっさん・塚田さん、同期の亮太・千夏、後輩の洋介・原ちゃん、今メンバーで活動ができてよかったです。ありがとうございました。

最後になりますが、原先生をはじめとする諸先生方、総務部、他学科の皆さん、企画の参加者においては多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

笑いあり涙あり

宣伝隊長

3年 佐藤 麻衣

先輩である畠さんからバトンを受け継ぎ、今年度畜産学科隊長を務めさせていただきました。自分が次期学科隊長に選ばれた当初は、自分で隊長としての任務を遂行できるだろうか、活動内容を何も知らない状態で入ってくる畜産学科の後輩を楽しませることが出来るだろうか、といった不安はかありませんでした。しかし、同期である7人の仲間とともに協力しあうことで最後まで無事やり遂げることができました。

今年度の活動は、8月に行われたダンスレジエントへの参加から始まり、リーダー公開、ジャズナイトフェスティバル、店回り宣伝、各駅宣伝と若干の小雨はあったものの、中止や延期もなく昨年度よりもスムーズに行うことができました。しかし、厚木パレードのみ台風の影響により行うことができず、今年は中止となってしまう。何とかして別日に行うことはできないのだろうか、と3年生同士で何度も話し合いを重ねたものの、ハロウィンイベントの開催と重なり、パレード場所の確保ができなかったことは本当に悔しく思っています。また、パレードを楽しみにしてくれていた神輿部門や学科統一本部の方々にも本当に申し訳なかつたです。来年度は、このような事態が起こりうることを想定した日程調整を行うことで必ず開催することができると思います。私の学科の後輩は2人いて、2人ともサークルやアルバイトが忙しく、集まりたくてもなかなか集まることのできなかつたりもしました。そのため、イベントで披露する大根踊りの練習や厚木パレードの練習をしたくてもなかなか集まることのできず、他学

科に比べて練習で遅れをとってしまったこともありましたが、厚木パレード練習の初めは2年生2人の学科警備の練習を見ていて、他学科と比較するとミスが多く、この2人に学科警備を任せられるだろうか、といった不安はかき消されました。しかし、2回目の全体練習でそのような不安はかき消され、この2人ならば安心して学科警備を任せられるといった確信を得ることができました。これは、遅れた分を取り戻そうと授業の合間やアルバイトが終わった後、個人練習に積極的に参加してくれたおかげだと思えます。そして何よりも、2人がやらされているのではなく、自分たちも楽しんで学科警備をやっているということがひしひしと伝わってきたことがうれしかったです。

次期学科隊長には、日々の活動をみていくなかで去年の私とより重なった方を選びました。つらいことも楽しいことも経験した彼女であれば、次に入ってくる後輩たちの立場になつて物事を考え、楽しませられると信じています。

最後に、小川・武内・優実ちゃん、1年間ついてきてくれてありがとう。宣伝隊として過ごした毎日には本当に楽しかつたし、来場者数昨年比2千人増加という大成功に終われたことはとてもいい思い出です。

皆で頑張った甲斐があつたね！優実ちゃんは来年度学科隊長として不安なこともあるかもしれないけれど、相手の立場になつて考えられる優しい優実ちゃんなら大丈夫だと思えます。時には悩むこともあるとは思いますが、そんな時は1人で抱えこまずに誰かに相談することを心掛けていってください。武内くんは優実ちゃんを全力でサポートして、2人で今年を上回るくらい良い宣伝隊をつくりあげていってください。応援しています！そして小川くん、お互い2年間お疲れ様でした。小川くんの存在がなければ自分1人で畜産学科隊長をやり遂げることではできなかつたと思います。本当にありがとう。

あとは優実ちゃん、よろしく！

一生に一度の経験

神輿隊長

3年 中村 真実

今年の神輿の活動は三年生一人、二年生三人の計四人で一丸となつて作業してきました。夏休み前から数回みんなで集まり夏休みの日程や神輿のテーマなどを決め、まずは神輿の活動をイメージしてもらおうことから始めました。二年生に対して三年生は私一人しかいなかったもので、教えることに時間を取られてしまつては活動が進まないと思つたからです。しかし、夏休みに入るとそれは杞憂だつたと実感しました。屋根装飾の土台となる柵作りでは、糸鋸の使い方を少し教えただけでぼんぼんと作つてくれました。また、それぞれで担当部分を決めて割り当てたところ、三人でアドバイスしあつたり、隣で作業している農学科の人たちに聞きに行き教えてもらつたりと、自分たちで考えて作業してくれたのでもとても助かつていました。私たちは小神輿と呼んでいる神輿を置くための台を今年は新調しようと思ひ、二年生に任せると苦勞しながらも立派な小神輿を作つてくれました。さらに今年は今までの畜産神輿のイメージを変えようと思ひ、屋根の形を新しくすることをしました。城の天守閣のようなイメージで骨組みを作つては壊しの上から作り直しました。試行錯誤の末、やつと納得のいく屋根が出来上がりました。手伝つてくれた統一委員長のお墨付きである今年の屋根は、安定性抜群でちよつとやそつとの揺れでは壊れない丈夫な仕様となりました。神輿の完成式では、去年私が感じた達成感を今年、二年生も感じて口にしてくれました。そのときの話してくれた言葉は去年以上の嬉しさと達成感がありました。

天候に恵まれず、またタイミングも悪かつたのか今年が一番街で行う厚木パレードが中止となりました。厚木パレードができな

いということ自体も残念ではありましたが、何より今年最後の厚木パレードとなる三年生が神輿を担がないということに悔しさと申し訳なきでいっぱいでした。唯一、全員で担げる場だつたので本当に残念でした。

収穫祭当日では他の活動で忙しい中統一のみんなが手伝つてくれて、やつと神輿を担ぐことができました。当日の天気良く、装飾に使つた金がベースの黒に映えてシンプルでかつこいい神輿になつたのではないかと思います。今年の色を抑えて私が好きなシンプルな神輿にしましたが、来年はまだ一味違つた神輿が見られることを期待しています。三人の個性溢れる作品にしてほしいです。何より一生に一度しかないこの機会を大切に、振り返つたときに楽しかつたと思える時間にしてほしいと思います。

最後に、私に神輿の楽しさを教えてくださった先輩方、二年間一緒に活動してきた三年生のみんな、ハプニングだらけだつたこの代をまとめて引つ張つてくれた統一委員長、本当にありがとうございました。なんだかんだありましたが、とっても楽しかつたです。

第126回体育祭

体育祭委員長

3年 佐藤 志保

結果報告

総合の部第五位
競技の部第二位
応援合戦の部第十四位

今年度畜産学科は、十一月六日に世田谷キャンパスで行われた東京農業大学第一二六回体育祭にて、頭書の成績を納めることができました。ご指導ご支援下さった先生方、六本部の皆様、OG・OBの皆様、保護者の皆様に深く感謝致します。

私は一年生の時、リレーに出たい、応援合戦にも出てみたい。とりあえず体育祭に出たいという理由で畜産学科統一本部の一員となりました。二年生の時は体育祭部門だけ、全体練習でみんなの前で話すこともほぼ無く、応援合戦の個人練習と衣装づくりに少し参加したくらいでした。体育祭部門だけ自分は本当に体育祭部門なのかなと悩んだこともあるほどでした。そんな中迎えた一年前の体育祭、交代式の際、背中にかかった委員長法被。それはずっしり重く、驚きと不安と嬉しさとで包まれたあの瞬間を今でも忘れられません。あれから早くも一年経ちました。実質、昨年度の体育祭終了後から始まった私たちのシーズンは長いようで短いようで、なんだか今でも体育祭が終わった実感が湧きません。毎日会室で顔を合わせていたみーちゃん、斎藤、比嘉ちゃん、じろちゃん。会室に行けばみんながいるような。そんな気がしています。

ファンタジア 幻想曲

樽裝飾委員長

3年 岩根 知咲

私にとって樽の板の上の3か月はどきどきとわくわくの連続だった。土の上に敷き詰められる畳約30畳分の板。そんな光景を目の前にした瞬間、1人では大きすぎるその世界に圧倒されたことを思い出す。シーズン中、その作業の中では本当にたくさんの想いが存在したと思う。いざ板の上に立つと先輩との楽しかった思い出が蘇り、戻りたくなる。しかしその気持ちの一方で好きなことを描きたい、私の想いを表したい、と思う自分が存在していたことも確かだ。私の想う、畜産。たくさんの時間を費やしてそれを下絵にしたとき私の中でふわふわとした感情が一気にまとまったのを感じた。ピンク色でかわいくてファンタジー。でも畜産学科特有のべた塗や金装飾は忘れない。そんな作品はやっぱりたくさんの人から様々な意見や感想を生んだ。それを耳にし、決意が揺らいだこともあった。畜産らしくないと言われ続けた日々や、不安と迷いでいっぱいになった日々。何よりも自分の意志が揺らいでしまう恐怖と共存する日々。

それでも私は前を向いて進もうと思った。先輩がくれた樽をつなぐために。心残りの無いように。だからどんなにみんなの思う畜産学科と違ってもいいと思った。私の想いが描く私だけの世界を創造しよう。これが私だ。そう思うように。

今年度畜産学科の作品は「ファンタジアなかわいさ」をテーマとし、他学科に絶対にならないようなものをつくらうと意気込んで取り組みました。メインであるこの羊を取り巻く多彩なピンク。その誰もが目を向けてしまう派手な色彩を存分に使用した作品は、ピンク色の宙や上に向かって伸びる藤の花を中心に、人間のもつ当たり前の常識を完全に無視したものとなりました。また、

一昨年は総合優勝、応援合戦第二位。昨年は総合準優勝、応援合戦優勝。素晴らしい結果を畜産学科は残しました。私は、とうとうかきつと統一のみんなは優勝することだけを一年生の時からずっと目指してきました。優勝しか狙っていませんでした。だから、今回のこの結果はみんなそれぞれ感じるものがあつたと思います。私は応援合戦が終わわり、三秒オーバーしてしまつて一割減点になると分かった時、ショックより先に楽しかった、やりきることができてよかつた、ほつとした気持ちの方が強かつたことに自分でも驚いています。応援合戦後、畜友のみんなが口々に「楽しかった!」「楽しんでくれて。応援合戦中もみんなの楽しんでくれて。霧囲気を肌で感じ取ることができて、悔しい気持ちは残るけれど、私はみんなが楽しんでくれたのなら、それだけで十分な体育祭でした。」

東京農業大学の体育祭は長い歴史の中で、ルールやプログラムの改定など年々新しい形に生まれ変わっています。来年度も大きな変更点が出てくるのではないかな。今年から応援合戦に応援要素を入れるという新しい採点基準ができました。ですが、それだけに囚われなくてもいいのではないかと私は思います。比嘉ちゃんと同じろちゃんがやりたいことをたくさん詰め込めたいと思います。応援合戦は言ってしまうえば自己満足です。自分たちが満足いく応援合戦を創り出すことができたのなら、それがどんな結果に終わっても、ああよかつたと思えるはずだから。みんながいる体育祭部門で体育祭委員長をやらせてよかつたです。ありがとう!来年度の体育祭を楽しみにしています。

わがままで自由奔放な性格の私はべた塗や金装飾、背景を描かないことといった畜産の伝統を捨てきらず、かと言って残しすぎず、自分の中にあるオリジナルの畜産学科を描きました。

作業全体を通しては、今年度は新学科が増えるため板の規格が変わるかもしれなかつたことや完成式前や設置作業のときは台風で悩まされ、設置作業が一時中止になってしまつたこと、強風により設置した板のブルーシートを外さなくてはいけなくなつたこと、それにより板を雨風にさらすことになつてしまつたこと等、毎年を超えるイレギュラーとの戦いでした。そんな慌ただしい日常を経て樽を完成させることができ、設置が無事完了したときは安心と感謝と嬉しさとでいっぱいになりました。残念ながら体育祭当日では17パネル中6位という悔しい結果となつてしまいましたが畜産学科の背景を担う部門としてしっかりと遂行することができました。

これで私は自信をもつて畜産学科統一本部第68代目樽・パネル裝飾部門を終えることができました。第69代目は隊長として琉璃ちゃんを筆頭に、彩ちゃん、こみの3人となります。その3人に私から伝えられることとしては仲間がいることの大切さです。琉璃ちゃん、彩ちゃん、こみ。あなたたちは3人います。それは私が渴望していた：たつた一つ、叶わなかつたものです。だから喧嘩したついでに。ぶつかり合つたらいい。不安や迷いに押しつぶされる前にはいっばい衝突して、いっばい意見を出し合つてください。仲間がいるということの奇跡を大切にしてください。今年あなたたちがやりたかつたことを存分に発揮してください。

こんなに個性的なメンバーが集まつたんだから来年度は最強かな?来年度、あなたたちの紡ぐ新たな世界を目にすることを楽しみにしています。ぜひこの一生に1回きりの時間を全力で楽しんでみてください。心残りなく成し遂げてください。そして見る人を虜にしてしまうような愛らしい作品ができることを祈っています。本当にありがとう。

最後に今年度樽の制作、設置作業にあたりましてたくさんの方々に御協力いただきましたことを深謝いたします。貴重な時間を樽部門のために費やしていただき、ありがとうございました。

毎日装飾

装飾委員長

3年 鈴木 華子

2年生の時に初めてふじみの書き、それから1年が経ちました。1年間があつという間に感じます。その1年間があつという間なら、シズンの3ヶ月間をなんと表現すればいいのでしょうか。

畜産学科の装飾部門がどんな活動をするのか知っている人は少ないと思います。縦14m、横10mの垂れ幕にペンキで絵を描き研究棟に飾ります。6月に装飾のメンバー5人で布を日暮里まで購入しに行き、夏休み開始と同時に装飾部門の活動も開始しました。暑い体育館で汗を流しながら布を切り、神輿小屋で布を繋げるためのヒモを縫い、寒い言いながら体育館下でペンキを塗りました。あんなに暑いと言いつつ汗をたらしながら言っていたのに、気付いたら寒さに凍えるほどの季節となっていました。

畜友の話から少しずれるのですが、わたしは畜産物利用学研究室に入っており、この研究室は収穫祭のペーコン、ハムの販売に向け夏休みから製造が始まりました。先輩からは利用研と畜友の両方はキツイよ」と言われていましたが、夏休みに入る前の自分は両立することを甘くみていました。実際は、ペンキを塗り、製造に行き、またペンキを塗り、体育祭練習をしたり、ペンキの乾き待ちに製造に行ったり、製造のシフトの時間、体育祭練習の時間、ペンキの進行具合、考えることが沢山ありすぎて頭がパンクしそうでした。自分が委員長になり、1つ上の委員長の奈々さん、2つ上の美晴さんへ対する尊敬の気持ちが強くまりました。それでも垂れ幕を無事に完成出来たのは、装飾の2年生と3年生4人がいたからです。

その素晴らしい装飾メンバーについてこれから紹介させて頂きます。まずは3年生の織田ちゃん。織田ちゃんはしっかり者で意見をたくさん提案してくれて、わたしの言いづらいいことも伝えてくれていたので感謝しています。ミルクティーが大好きで、よく話してくれて装飾の中ではムードメーカー的存在です。

3年生2人目は道前君。道前くんは、装飾一、畜友一の癒しキャラです。お菓子が大好きで先輩方の差し入れや寸志のお菓子を「みんなが

食べたいと思って。開けたら食べるでしょ？」と言ってすぐお菓子を食べていました。装飾唯一の男の子で居づらかつたり言いづらいいこともあったと思います。寂しい思いをさせてごめんね。私は、2年生のシズン後の片付けをしている時に、先輩方がいなくなってしまうと寂しさもありましたが、織田ちゃんと道前君の3人である時間が楽しかった。お腹が痛くなるほど笑いました。その時この2人となら大丈夫、楽しいシズンを送れそうだと思います。意見がぶつかる時も少しだけあったけど本当にありがとう。

次は2年生2人について紹介します。まず1人目は、みさとのみーちゃん。みーちゃんは、1年生の時からたくさん手伝いにきてくれていました。今年ほぼ毎日来てくれて、誰よりも集金力があるので、みーちゃんがやっているから私もやらなければとやる気の源でもありました。みーちゃんがいなければ終わらなかつたかもしれぬです。朝が得意で、みーちゃんよりも早く学校に来るといふ事が私の密かな目標でした。

2人目は、すみれのすーちゃん。畜友で一番可愛い女の子。アイディアをたくさん出してきて、センスが素晴らしく何度も助けてもらいました。自ら動いてくれて気が利いて笑顔が可愛いナイスガールです。装飾が実際一番楽しいと思います。嬉しくなるようなことを言うてくれまして。来年度の委員長はすーちゃんです。2年生は2人だけで、新しい1年生と共にすーちゃんみーちゃんにしかなれないものを作ってください。不安はたくさんあると思うしぶつかることもあると思うけど、2人なら大丈夫。とても楽しみにしています。

シズン中は大変で早く終わらないかと思つていましたが、シズンが最終になると、最後のペンキ塗り、最後のダンスの体育館練習、最後の世田谷でのグラ練の時には自分でも驚きました。垂れ幕の設置日の前日は不安でなかなか眠れなく、心配で眠れないということも初めてでした。

本当に濃い3か月間で大切な思い出です。わたしの大学生活のなかで畜産学科統一本部が一番特別になると思います。

最後になりましたが、信岡先生を始めとする先生方、各研究室の方々、わからないことを優しく丁寧に教えて下さった先輩方、個々が強く何人もぶつかったけど会うと安心する3年生16人、元氣な2年生17人、ありがとうございました。みなさん大好きです。みなさんに出逢えてよかったです。

甚だ簡単ではございますが畜産学科統一本部装飾部門委員長の言葉とさせていただきます。

家畜苑

家畜苑苑長

3年 大平 祐輔

今年の家畜苑は三年生三人、二年生二人の五人での活動でした。人数が少ないこともあり、一人一人が進めなければならぬ作業が多く、役割を分けつつも、協力しながら進めていきました。活動は、昨年より早い八月の中旬から始まりました。八月は、本格的な活動を開始し、家畜苑の入口に設置する門や動物小屋の後ろに飾る風景絵、動物を展示するための小屋、各動物に関する説明文の製作を始めました。九月からは一年生が手伝いに来てくれるようになり、家畜苑の作業の人数も増え、ベンチや牛の置物などの製作や門の制作の手伝いなどの協力をしてもらいながら進んでいきました。しかし、今年も、十月中旬から下旬にかけて台風が直撃し、家畜苑も被害がありました。二週連続での台風だったこともあり、その期間は作業を進めることができず、焦りを感じながらの作業をする事が多くありました。

収穫祭の当日は、例年通りに牛ブラッシング体験、ひよこのふれあい体験、バター作り、〇×クイズをしました。また、今年も新たな取り組みとして、バイオセラピー学科が所有しているトラクターをお借りし、家畜苑の会場での展示や、特別企画本部と合同企画として家畜苑の会場内でのミニバルーン教室を両日三十分ずつ行いました。牛のブラッシング体験やヒヨコのふれあい体験などの体験企画も人気で、毎回たくさんの方々にお並びいただきました。今年初めて企画したトラクターの展示や、ミニバルーン教室も来場者の方々に大変人気でした。

今年も家畜苑の開催には、家畜衛生学研究室、家畜飼養学研究

室、畜産マネジメント研究室、畜産物利用学研究室、富士農場のご協力のもと、畜産学科の先生方のご指導やご支援、畜友会のみんなの協力があり、無事に家畜苑を運営することができました。

八月から始まったシズンは人数が少ない、収穫祭に間に合うのか不安で一杯でした。しかし、収穫祭当日になると、ふれあい体験を待つ長い列や、来場者の方々の顔に笑顔が溢れている様子を見る事ができ、来場者の方から「ふれあい体験が楽しかった!」「また来年も来たい!」という言葉を直接聞くことができ、嬉しい気持ちになると同時にこのシズンの活動をしてきて、無事に家畜苑を完成できたことに、家畜苑のメンバーに感謝の気持ちでいっぱいになりました。昨年は作業や終夜などの家畜苑の活動は初めてのシズンだったため、ペースをなかなか掴めないままシズンを過ぎてしまいました。今年は委員長としていろいろな活動があったので、あつという間のシズンでした。これだけ濃密で充実感を感じることができているのは家畜苑の良いところだと思います。昨年の家畜苑から変更点もあり、委員長としてはあまり上手に進めることはできませんでしたが、ケガなどなくこの家畜苑の五人でシズンを終えることができましたことを嬉しく思います。この家畜苑での活動は大学生活の大切な思い出です。

最後に、来年の家畜苑は竹内豊が苑長を務めます。来年の家畜苑は、今年取り組んだことを生かしながら、自分たちの色を出した展示をしてくれると思います。来年の家畜苑の活躍を心から期待しています。ありがとうございました。

編集後記

今年度も、ふじみの第五十四号を無事発刊することができました。今こうして、皆様の手が届きご覧いただけることを、心より嬉しく思います。

第十八回収穫祭では、前年度以上の盛り上がりを感じることが出来ました。今回の収穫祭は、テレビにて取り上げられて注目度が上がり、来場客数が前年度より約二千人増加という結果となりました。毎年恒例の野菜無料配布や大根収穫体験、家畜苑も、大盛況に終わりました。皆様も忙しなくも充実した時間を作ることができたのではないでしょうか。

また収穫祭と合わせて皆様力が注がれた第二百二十六回体育祭。今年度も厚木キャンパスで入賞台を埋めようと奮闘しましたが、惜しくも果たせませんでした。今後も優勝を目指し、優勝旗を厚木キャンパスに持ち帰れるように、尽力していただきたいと思えます。皆様の更なる活躍を、よかつたと思える時間がまた作れるように祈っております。この「ふじみの」が、今後も皆様の刻んだ時間を思い返すきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、本誌を発刊するにあたり、お忙しい中ご寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深くお礼申し上げます。

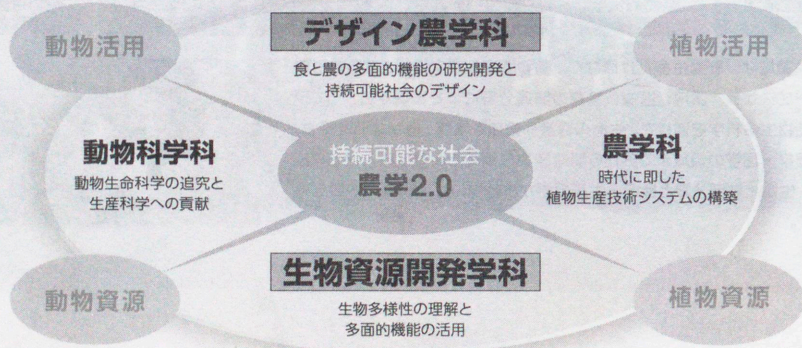
編集委員長 3年 小川 凌太

農のところで、社会をデザインする
新しい農学部

(2018年4月からの新体制)

東京農大126年の歴史は、農学部歴史。

新しい農学部は、広範な動植物分野を研究・教育対象に持続可能な社会の実現に貢献することがミッションです。



平成30年3月20日 発行

神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部畜産学科畜友会
電話 046(270)6220 (総務課)

発行者

“ふじみの”第54号

ふじみの執行委員 小川 凌太
池内 美里

印刷所

東京都荒川区西尾久7-12-16
創文印刷工業株式会社
電話 03(3893)0111



動物科学科

※2018年4月畜産学科より変更予定

Department of Animal Science

動物生命科学の追究と生産科学へ貢献する

動物生殖学
研究室

動物遺伝学
研究室

動物生理学
研究室

動物栄養学
研究室

動物衛生学
研究室

動物行動学
研究室

動物系領域は、動物生産だけではなく、動物関連産業を始めとする有形無形のサービスから、環境、医療、教育の関連分野にまで領域が広がっています。動物生命科学を通じて、生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医学・薬学・理学の領域まで広がる関連産業の領域で貢献する人材を養成します。生命・制御分野と機能・生産分野から動物の生命現象の本質を追究します。



